

LANSheet[®] Light

Access Point
IT-AP2006

User's Guide

 **ITOKI**

Index

1. はじめに	1
1-1. 本書について	1
本書の表記について	1
商標について	1
1-2. 安全に正しくお使いいただくために	2
2. 本製品について	5
2-1. 本製品の特長	5
2-2. 機器の説明	6
2-3. ハードウェア仕様	8
2-4. ソフトウェア仕様	9
2-5. 電源供給について	10
2-6. 無線電波について	11
使用上のご注意	11
2-7. OpenSSL ライセンスについて	13
3. 本製品の設定	17
3-1. 設定モードを使用した設定方法	17
設定モードで起動する	17
設定する	19
ネットワークに接続する	22
3-2. ネットワーク経由での設定方法	23
本製品をネットワークに接続する	23
パソコンのネットワーク設定を変更する	25
設定する	27
本製品をネットワークに接続し、無線 LAN 端末と接続する	36

4. 詳細設定	39
4-1. 設定画面の名称と機能について	39
4-2. 情報機器（ホスト名、TCP/IP および DNS）の設定.....	40
4-3. 有線 LAN の機能およびセキュリティ設定	42
4-4. 無線 LAN 詳細設定	45
4-5. VLAN 設定.....	61
4-6. DHCP サーバ設定	63
4-7. NTP 設定	64
4-8. RSSI 通知設定	65
4-9. パスワード設定	67
5. 無線機器との接続	69
5-1. パソコンとの接続.....	70
6. 本製品の機能.....	71
6-1. ログ出力機能.....	71
設定前の準備.....	71
ログ出力の設定.....	72
ログ出力中に USB ストレージを取り外したときの対処方法	74
6-2. 設定インポート / エクスポート機能	75
Web ページからエクスポート / インポートする	76
6-3. DHCP サーバ機能.....	80
6-4. Web ブラウザによるステータス監視機能.....	82
6-5. メンテナンス機能	83
本製品の再起動.....	83
設定の初期化.....	85
6-6. VLAN 機能.....	87
VLAN 機能を設定する.....	88
A. 付録	93
A-1. 設定項目一覧.....	93

1. はじめに

このたびは、Access Point IT-AP2006（以降、本製品）をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

1-1. 本書について

本書は、本製品の設定およびご利用方法を記載したものです。
本製品をお使いいただく前に、「安全に正しくお使いいただくために」をお読みください。

本書の表記について

- ・ 本書の内容の一部または全部を弊社の事前の許可なく無断で転載あるいは、複製することは法律で禁止されています。
- ・ 本書の内容は将来予告なく変更することがあります。
- ・ 本書はそれぞれの OS にあわせて注意深く用意してはおりますが、将来バージョンアップや OS に変更のあった場合など、パソコンのモニタに実際に表示される表現と差異が出る可能性があります。ご了承ください。
- ・ 本書編集にあたって万全を期しておりますが、誤りや設定などの例による結果に対し、弊社は責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

- ・ Microsoft、Windows などは米国マイクロソフトコーポレーションの米国および、その他の国における登録商標です。
- ・ Ethernet は Xerox Corporation の商標です。
- ・ その他記載されている社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

1-2. 安全に正しくお使いいただくために

本製品を安全にお使いいただくための注意事項を説明しています。

本製品を正しく、安全にご使用いただくために、以下の各項を熟読したうえでお取り扱いください。なお、ここに記載されている内容は、機器の安全な取り扱いのほかに、操作者の安全についての一般的な事柄をまとめたものです。ご使用前にこのページを必ずお読みください。

【警告表示の意味】

	警告	誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	誤った取り扱いをすると、使用者が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

【絵表示の意味】

	警告 / 注意を促す内容を示しています。 (例:  感電注意)
	してはいけない事項 (禁止事項) を示しています。 (例:  分解禁止)
	しなければならない行為を示しています。 (例:  プラグをコンセントから抜く)


警告

	<p>* 衝撃を与えないでください。万一、衝撃を与え、破損した場合は、接続機器の電源を切り、本製品の電源プラグをコンセントから抜いて（PoE（Power over Ethernet）による受電の場合はネットワークケーブルをイーサネットハブから抜いて）、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。</p> <p>* 異常があった場合は、すぐ接続機器の電源を切り、本製品の電源プラグをコンセントから抜いて（PoEによる受電の場合はネットワークケーブルをイーサネットハブから抜いて）ください。そして販売店に修理・点検を依頼してください。そのまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 異常に発熱したり、煙が出ていたりして異臭がする場合 * 異物（金属片や液体など）が本製品の内部に入った場合
	<p>* 本製品に接続しているコード類、ケーブル類には、子供が手を触れないよう十分ご注意ください。感電、ケガのおそれがあります。</p>
	<p>* 感電防止のため、接続機器にアース線がある場合は、コンセントのアース端子または、接地工事（第1種～第3種）を行っている接地端子に必ず接続してください。ガス管や水道管、電話線のアース、避雷針などには、絶対に接続しないでください。故障や事故の原因になります。</p>
	<p>* 本製品を分解したり、改造したりしないでください。火災、感電、故障の原因になります。</p> <p>* 本製品付属の AC アダプタを分解したり、改造したりしないでください。火災、感電、故障の原因になります。</p>


注 意

	<p>* 接続機器および、本製品の電源プラグを抜く際は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。</p>
	<p>* 本製品を取り外しするときは、必ず接続機器および本製品の電源プラグをコンセントから抜いて（PoEによる受電の場合はネットワークケーブルをイーサネットハブから抜いて）行ってください。</p> <p>* 本製品に付属している AC アダプタ以外のものを使用しないでください。故障の原因となります。</p> <p>* 本製品の使用前には、すべてのコード類、ケーブル類が正しく接続されていることを確認してください。</p> <p>* 連休などで長期間本製品をご使用にならない場合は、安全のため接続機器および本製品の電源プラグを抜いてください。</p>
	<p>* 本製品は以下のような場所で使用したり、保管したりしないでください。故障の原因になることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 振動や衝撃が加わる場所 * 傾いている場所 * 不安定な場所 * 直射日光のあたる場所 * 湿気やほこりの多い場所 * 水気の多い場所（台所、浴室など） * 熱を発生する物の近く（ストーブやヒータなど） * 温度差の激しい場所 * 強い磁力電波が発生する物の近く（磁石、ラジオ、無線機など）

2. 本製品について

本製品は、IEEE 802.11a/b/g/n（理論値 300Mbps）に対応したワイヤレスアクセスポイント（親機）です。無線 LAN に対応したステーション機器（子機）を相互に接続する基地局になります。

エンタープライズセキュリティに対応しているほか、PoE による電源供給にも対応した業務用アクセスポイントです。



参考

・PoE（Power over Ethernet）とは、Ethernet の配線に使うネットワークケーブル（カテゴリ 5 以上）を利用して電力を供給する技術で、電源を取りにくい場所に機器を置く場合や、従来電源が必要なかった機器を Ethernet 対応にする場合などに活用できます。

2-1. 本製品の特長

本製品の特長および製品のシステム構成は以下のとおりです。

- ・無線アクセスポイントとして動作し、最大 100 台（※ 1）のステーションが接続可能です。
- ・無線 LAN 規格 IEEE 802.11a/b/g/n（理論値 300Mbps）に対応しており、2.4GHz、5GHz のデュアルバンドで動作します。
- ・認証方式として IEEE 802.1X に対応していますので、高いセキュリティを実現できます。
- ・Multi SSID に対応していますので、最大 4 つの無線インタフェースが動作します。
- ・Web ページから簡単に各種設定が可能です。
- ・DHCP サーバ機能に対応しています。
- ・VLAN（Virtual Local Area Network）に対応していますので、仮想的に複数のネットワークグループが構成できます。
- ・統合管理ソフトウェア「LANSheet Light Manager」（有償）に対応しています。
- ・「LANSheet Light Manager」を使用することで、遠隔地からの運用・監視、一括での設定変更やバージョンアップを行うことができます。



参考

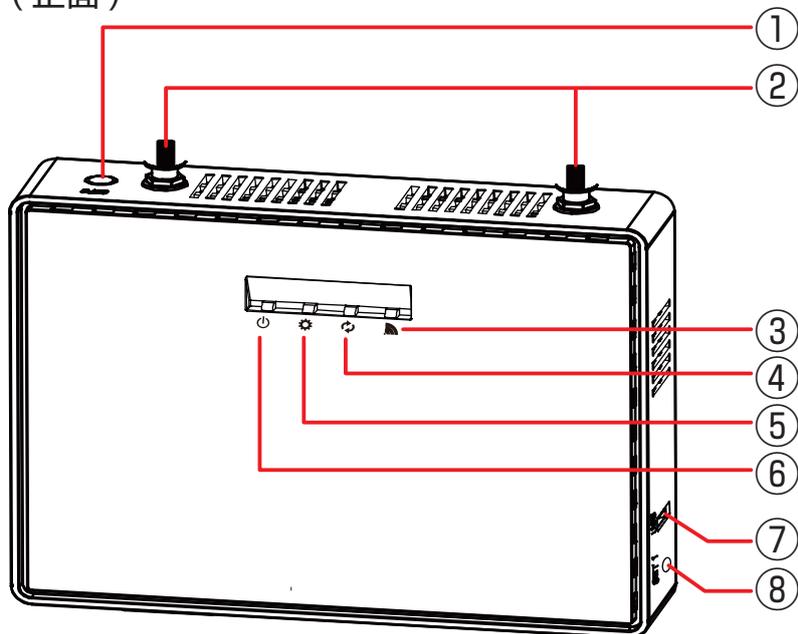
・「LANSheet Light Manager」の詳細については、弊社のホームページを参照してください。

（※ 1）無線の暗号化方式で「TKIP」または「AUTO」を使用する場合は、最大 50 台です。

2-2. 機器の説明

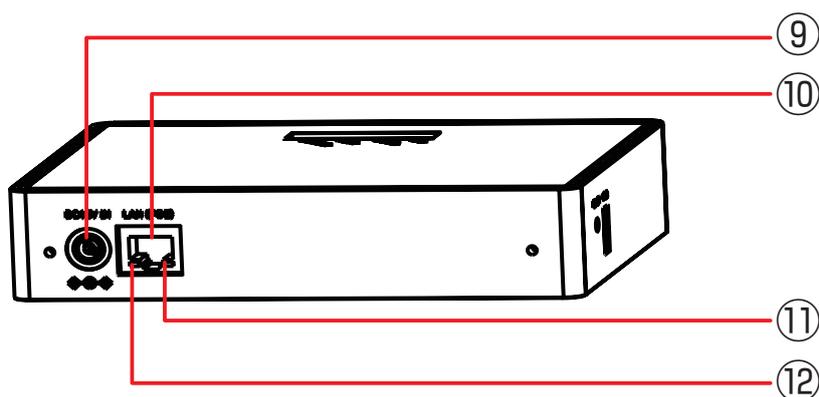
各機器の部位の名称と働きは以下のとおりです。

(正面)



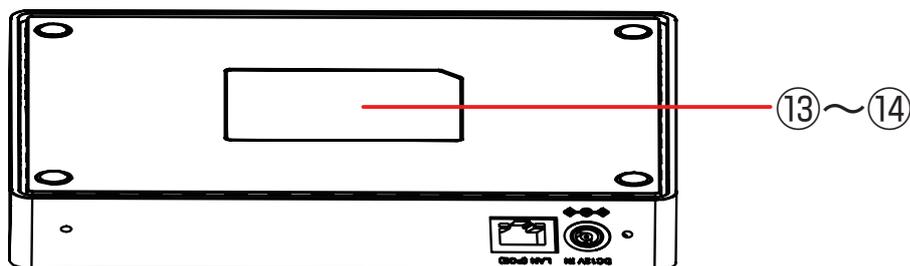
①	プッシュスイッチ (SET2)	メンテナンス用となりますので使用できません。	
②	近接コネクタ接続端子	近接コネクタを接続する端子です。	
③	WSTAT LED (緑)	緑点滅	無線 LAN データ通信中
④	Band LED (緑/赤)	緑点灯	2.4GHz 帯で通信中
		赤点灯	5GHz 帯で通信中
		消灯	無線通信不可状態
⑤	Mode LED (橙)	橙点滅	設定モードで起動中
⑥	Power LED (緑/橙/赤)	橙点滅	起動処理中
		緑点灯	起動処理完了
		赤点滅	「ログ出力中に USB ストレージを取り外したときの対処方法」参照
		消灯	電源 OFF
⑦	USB ポート	USB メモリ (A タイプコネクタ) を接続できます。	
⑧	プッシュスイッチ (SET1)	設定モードで起動する	本製品を動作中に 3 秒以上押して離す。
		設定を初期化する	押しながら電源を投入。5 秒以上押して離す。

(底面)



⑨	電源コネクタ	AC アダプタを接続します。
⑩	ネットワークポート	ネットワークケーブルを接続します。
⑪	Status LED (黄)	有線 LAN データ通信中に点滅
⑫	Link LED (緑)	有線 LAN 接続状態

(裏面)



⑬	Default SSID Key Authentic Encryption PIN Code Password IP Address	本製品の工場出荷時設定の SSID です。 本製品の工場出荷時設定の共有キーです。 本製品の工場出荷時設定の認証方式です。 本製品の工場出荷時設定の暗号化方式です。 本製品の工場出荷時設定の PIN コードです。 本製品の工場出荷時設定のログインパスワードです。 本製品の工場出荷時設定の IP アドレスです。
⑭	E/A	本製品の Ethernet アドレスです。

2-3. ハードウェア仕様

動作環境条件	温度：0℃～+40℃ 湿度：20%～80%RH（但し、結露状態でないこと）
保存環境条件	温度：-10℃～+50℃ 湿度：20%～90%RH（但し、結露状態でないこと）
CPU	32bit RISC CPU
メモリ	RAM : 64MByte FlashROM : 16MByte
有線ネットワーク インタフェース	10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T（自動認識）：1ポート Auto MDI/MDIX Power over Ethernet（PoE）対応
無線ネットワーク インタフェース	IEEE 802.11a/b/g/n （使用可能なチャンネルは、各国の規制により異なります。）
USB インタフェース	USB2.0 Hi-Speed ポート（A タイプ）：1ポート
プッシュスイッチ	2個 メンテナンス用：1個 設定初期化用：1個
LED ランプ	本体正面部 Power LED（緑 / 橙 / 赤） Mode LED（緑 / 橙 / 赤） Band LED（緑 / 赤） WSTAT LED（緑 / 赤） ネットワークポート部 Status LED（黄） Link LED（緑）

電波障害自主規制について

この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

正しい取り扱いをしていただいても、電波の状況によりラジオやテレビの受信に影響を及ぼすことがあります。

このようなときには、次の点にご注意ください。

- 本製品とラジオ、テレビを十分に離してご使用ください。
- 本製品とラジオ、テレビを別のコンセントに接続してください。

2-4. ソフトウェア仕様

TCP/IP	ネットワーク層	ARP, IP, ICMP
	トランスポート層	TCP, UDP
	アプリケーション層	BOOTP, DHCP(クライアント/サーバ), HTTP, WINS(NBNS), NTP, SNMP, FTP, SSH

2-5. 電源供給について

本製品の電源供給方法は 2 つの方法があります。

- ・ AC アダプタから電源供給
- ・ ネットワークケーブルから電源供給

本製品は、IEEE 802.3af 準拠の電源供給機器からネットワークケーブル経由で受電が可能です。詳細は、各電源供給機器の取扱説明書を参照してください。



参考

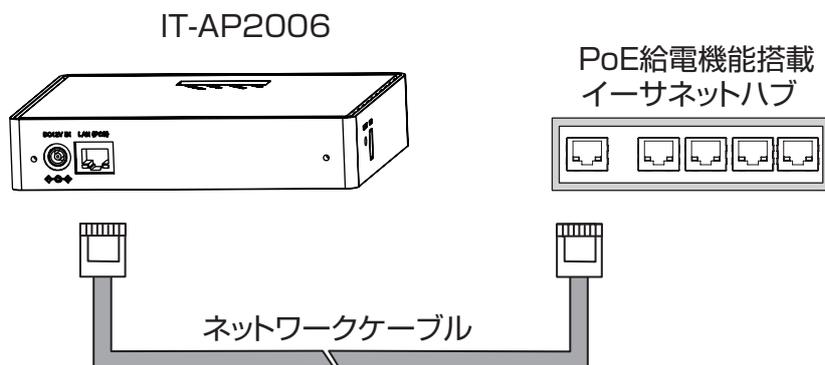
- ・ PoE (Power over Ethernet) とは、Ethernet の配線に使うネットワークケーブル (カテゴリ 5 以上) を利用して電力を供給する技術で、電源を取りにくい場所に機器を置く場合や、従来電源が必要なかった機器を Ethernet 対応にする場合などに活用できます。



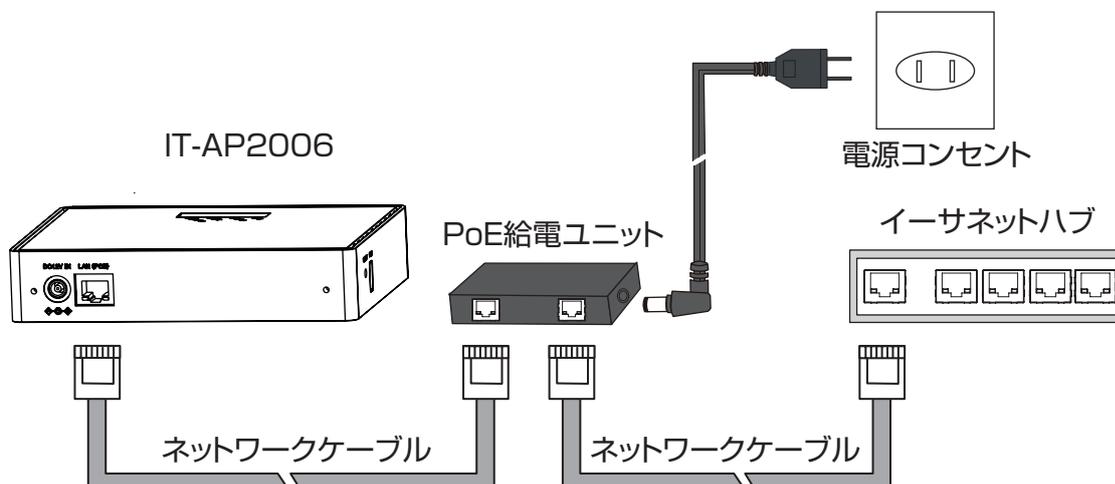
注意

- ・ PoE 給電する場合、本製品付属の AC アダプタは必要ありません。
- ・ 本製品付属の AC アダプタが本製品に接続されている場合は、AC アダプタより給電します。

接続例 1 : PoE 給電機能搭載ハブを使用する場合



接続例 2 : PoE 給電ユニットを使用する場合



2-6. 無線電波について

使用上のご注意

以下の機器などの近くで本製品を使用しないでください。

- ・電子レンジ / ペースメーカーなどの産業・科学・医療用機器など
- ・工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
- ・特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

上記の機器などは、無線 LAN と同じ電波の周波数帯を使用しています。上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。そのため、通信ができなくなったり、速度が遅くなったりする場合があります。

携帯電話・PHS・テレビ・ラジオを本製品の近くでは、できるだけ使用しないでください。

携帯電話・PHS・テレビ・ラジオなどは、無線 LAN とは異なる電波の周波数帯を使用しています。そのため、本製品の近くでこれらの機器を使用しても、本製品の通信およびこれらの機器の通信に影響はありません。ただし、これらの機器を無線 LAN 製品に近づけた場合は、本製品を含む無線 LAN 製品が発生する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。

間に鉄筋や金属およびコンクリートがあると通信できません。

本製品で使用している電波は、通常の家屋で使用されている木材やガラスなどは通過しますので、部屋の壁に木材やガラスがあっても通信できます。

ただし、鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。

部屋の壁にそれらが使用されている場合、通信することはできません。

同様にフロア間でも、間に鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されていると通信できません。

本製品は、技術基準適合証明を受けています。必ず次の点を守ってお使いください。

- ・分解・改造をしないでください。分解・改造は法律で禁止されています。
- ・技術基準適合ラベルを剥がさないでください。ラベルのないものの使用は禁止されています。

2.4GHz 帯使用の無線機器について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ、産業・科学・医療用機器などのほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

- ・ この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。
- ・ 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数帯を変更するか、または電波の発射を停止した上、弊社までご連絡いただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
- ・ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きた場合は、弊社までお問い合わせください。

5GHz 帯使用時のご注意

- ・ 電波法により 5.2G 帯 (W52/W53) は屋外での利用を禁じられています。屋外でご利用の場合は W56 のチャンネルのみを使用し、W52/W53 のチャンネルは使用しないでください。

2-7. OpenSSL ライセンスについて

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit.

(<http://www.openssl.org/>)

OpenSSL License

/* =====

* Copyright (c) 1998-2005 The OpenSSL Project. All rights reserved.

*

* Redistribution and use in source and binary forms, with or without

* modification, are permitted provided that the following conditions

* are met:

*

* 1. Redistributions of source code must retain the above copyright

* notice, this list of conditions and the following disclaimer.

*

* 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright

* notice, this list of conditions and the following disclaimer in

* the documentation and/or other materials provided with the

* distribution.

*

* 3. All advertising materials mentioning features or use of this

* software must display the following acknowledgment:

* "This product includes software developed by the OpenSSL Project

* for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"

*

* 4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to

* endorse or promote products derived from this software without

* prior written permission. For written permission, please contact

* openssl-core@openssl.org.

*

* 5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL"

* nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written

* permission of the OpenSSL Project.

*

* 6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following

* acknowledgment:

* "This product includes software developed by the OpenSSL Project

* for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

*

* THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS" AND ANY
* EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
* IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
* PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR
* ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
* SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT
* NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES;
* LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
* HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,
* STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
* ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED
* OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

* =====

*

* This product includes cryptographic software written by Eric Young
* (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim
* Hudson (tjh@cryptsoft.com).

*

*/

Original SSLeay License

/* Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

* All rights reserved.

*

* This package is an SSL implementation written

* by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

* The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

*

* This library is free for commercial and non-commercial use as long as

* the following conditions are aheared to. The following conditions

* apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA,

* lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation

* included with this distribution is covered by the same copyright terms

* except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

*

* Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in

* the code are not to be removed.

* If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution

* as the author of the parts of the library used.

* This can be in the form of a textual message at program startup or

* in documentation (online or textual) provided with the package.

*

- * Redistribution and use in source and binary forms, with or without
- * modification, are permitted provided that the following conditions
- * are met:
- * 1. Redistributions of source code must retain the copyright
- * notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
- * notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
- * documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * 3. All advertising materials mentioning features or use of this software
- * must display the following acknowledgement:
- * "This product includes cryptographic software written by
- * Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
- * The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library
- * being used are not cryptographic related :-).
- * 4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from
- * the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
- * "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"
- *
- * THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS" AND
- * ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
- * IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
- * PURPOSE
- * ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
- * FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
- * DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE
- * GOODS
- * OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
- * HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,
- * STRICT
- * LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
- * OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
- * SUCH DAMAGE.
- *
- * The licence and distribution terms for any publically available version or
- * derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be
- * copied and put under another distribution licence
- * [including the GNU Public Licence.]
- */

3. 本製品の設定

この章では、本製品の設定方法について説明しています。

本製品には以下の設定方法があります。

- ・ 設定モードを使用した設定方法（推奨）
- ・ ネットワーク経由での設定方法

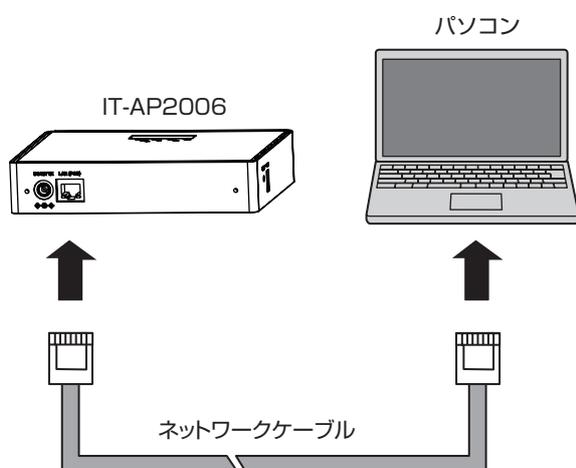
3-1. 設定モードを使用した設定方法

設定モードでパソコンと直接接続して設定する方法について説明します。

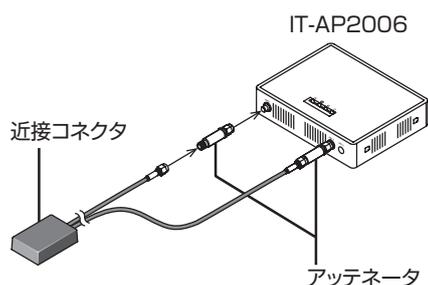
この設定方法では、本製品を 1 台ずつ設定します。

設定モードで起動する

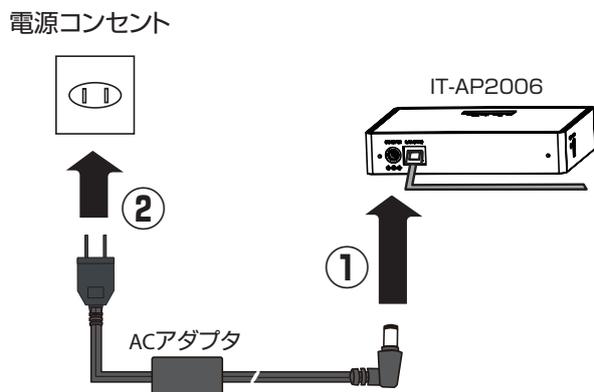
1. 本製品の設定に使用するパソコンと本製品を、ネットワークケーブルで接続します。



2. 本製品にアッテネータ、近接コネクタを接続します。

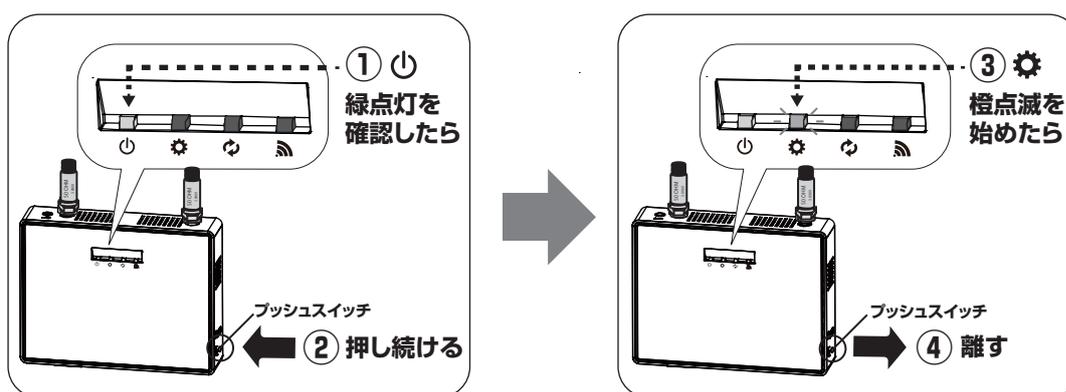


3. 本製品に AC アダプタを接続して、AC アダプタのプラグを電源コンセントに差し込みます。



・設定に使用するパソコンの無線 LAN が有効になっている場合は無効にしてください。

4. 本製品正面の Power LED が橙点滅から緑点灯に変わったら、ボールペンなど先の細いものでプッシュスイッチを押し続けます。Mode LED が橙点滅を始めたら、プッシュスイッチから離します（Mode LED 点滅まで、約 3 秒間かかります）。本製品が設定モードで起動して、ネットワークケーブルで接続したパソコンから本製品を設定できます。



設定する

1. 本製品の設定に使用するパソコンと本製品が、正しく通信できる状態になっていることを確認します。

- ・本製品の設定に使用するパソコンに、正しく IP アドレスが割り当てられていることを確認します。パソコンの有線 LAN が使用可能であることが必要です。



参考

- Windows 10 での確認例

タスクトレイアイコン () を確認して、パソコンの有線 LAN が使用可能な状態であることを確認してください。

- ・本製品の設定に使用するパソコンの無線 LAN が無効になっていることを確認します。

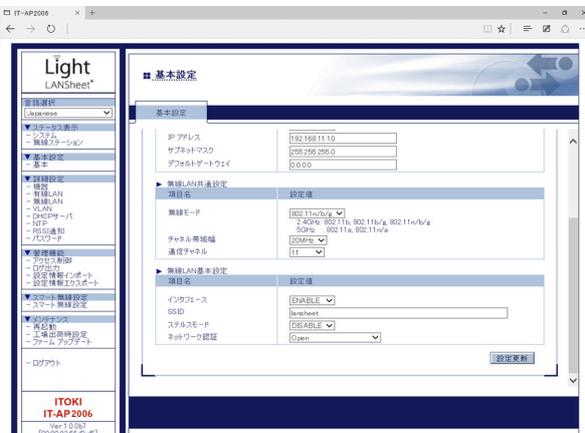
2. 設定に使用するパソコンで Web ブラウザ (Internet Explorer、Firefox など) を起動すると本製品の Web ページが表示されます。



参考

- ・ Web ページが表示されない場合は、Web ブラウザのアドレスバーに本製品の IP アドレス (工場出荷時 192.168.0.10) を直接入力して、Enter キーを押すと、Web ページが表示されます。
- ・ 本製品にパスワードを設定している場合は設定ページを表示する前にパスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力して「ログイン」をクリックします。
- ・ 初期導入時は、表示されません。手順3に進んでください。

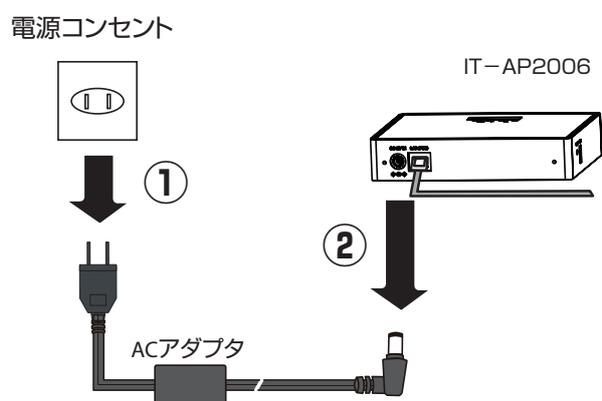
3. 設定ページで、各種必要な項目を入力します。設定項目の内容については付録の「設定項目一覧」を参照してください。
 入力が完了したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。



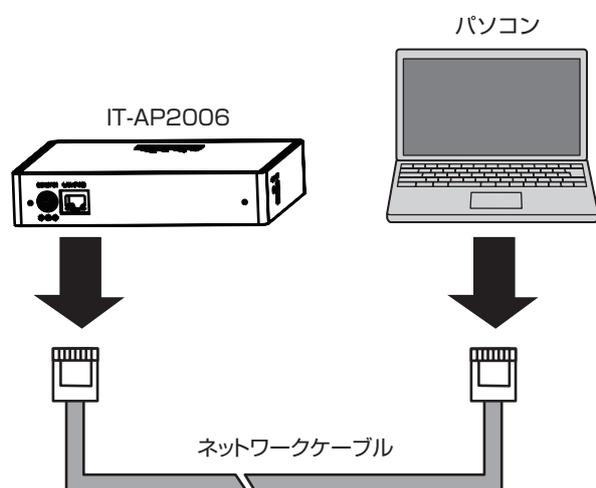
4. 「設定完了」が表示されたら、本製品の設定は完了です。



5. ACアダプタのプラグを電源コンセントから抜いて、本製品からACアダプタを抜きます。

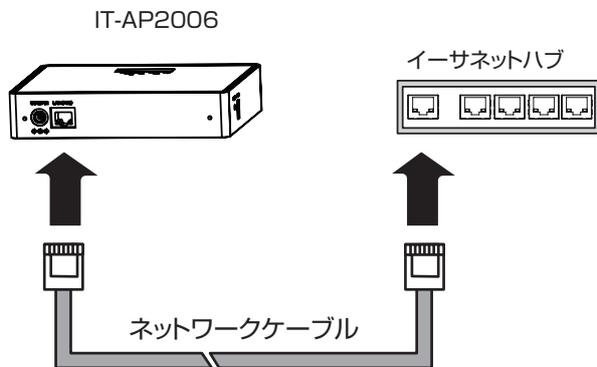


6. 本製品とパソコンからネットワークケーブルを抜きます。

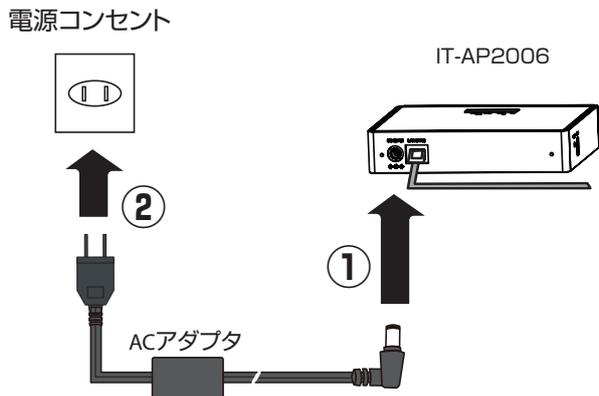


ネットワークに接続する

1. 本製品とイーサネットハブをネットワークケーブルで接続します。



2. 本製品に AC アダプタを接続して、AC アダプタのプラグを電源コンセントに差し込みます。



3-2. ネットワーク経由での設定方法

パソコンからネットワーク経由で設定する方法について説明します。

この設定方法は、複数台の本製品をネットワークに接続して設定することができます。



注意

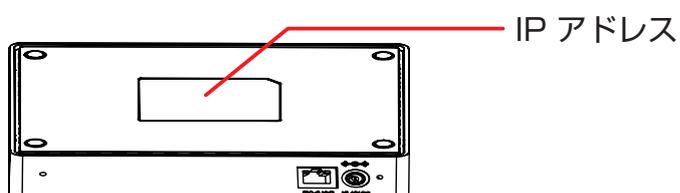
- この設定方法を使用する場合は、パソコンのネットワーク設定を一時的に変更する必要があります。

本製品をネットワークに接続する

【本製品の初期設定情報を確認する】

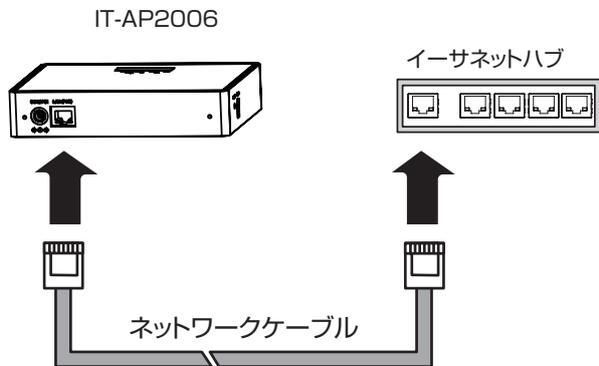
本製品の初期設定を行う場合、本製品の工場出荷時の「IP アドレス」は「192.168.0.10」です。

既に初期設定が完了している場合は、次へ進みます。

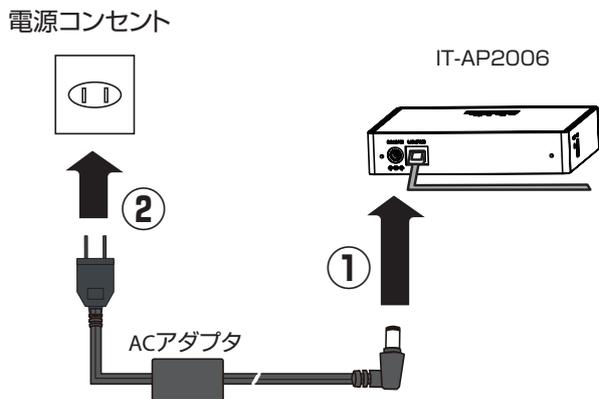


【ネットワークに接続する】

1. 本製品とイーサネットハブをネットワークケーブルで接続します。



2. 本製品に AC アダプタを接続して、AC アダプタのプラグを電源コンセントに差し込みます。



参考

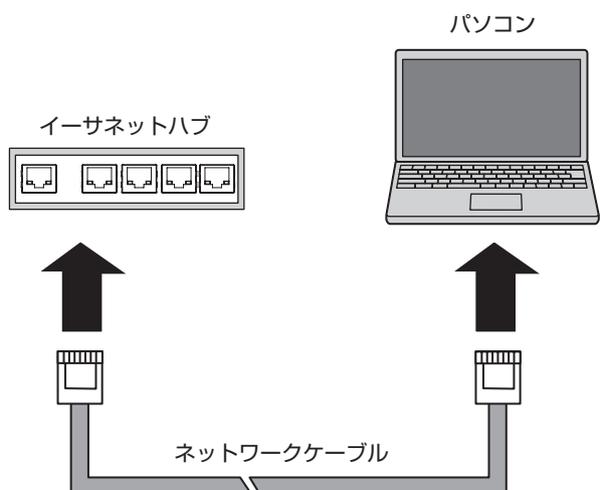
- 複数台の本製品を接続する場合は、本操作を繰り返します。

パソコンのネットワーク設定を変更する

本製品を設定するパソコンをネットワークに接続して、本製品にアクセスできるようにネットワーク設定を変更します。

【パソコンをネットワークに接続する】

本製品の設定に使用するパソコンとイーサネットハブをネットワークケーブルで接続します。



【ネットワーク設定を変更する】

本製品と通信できるよう、パソコンのネットワーク設定を変更します。

ネットワーク設定の例)

本製品の IP アドレスの工場出荷時の値は、「192.168.0.10」です。

パソコン側のネットワーク設定を以下のように設定します。

IP アドレス：192.168.0.11

サブネットマスク：255.255.255.0



- 工場出荷時設定の本製品には、IP アドレス「192.168.0.10」が設定されています。パソコンに設定する IP アドレスが本製品の IP アドレスと重複しないようにしてください。



- Windows 10 でのネットワーク設定変更手順
 1. 「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「ネットワークとインターネット」 - 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックして、「ネットワークと共有センター」を表示します。
 2. 「ローカルエリア接続」をクリックして、「ローカルエリア接続の状態」を表示します。
 3. 「プロパティ」をクリックして、「ローカルエリア接続のプロパティ」を表示します。
 4. 「インターネット プロトコル (TCP/IP)」を選択して、「プロパティ」をクリックします。
 5. 「IP アドレス」と「サブネットマスク」、および必要に応じて「デフォルトゲートウェイ」などを設定します。

設定する

【Web ページにアクセスする】



参考

- ・以降の説明において、OS または Web ブラウザのバージョンによって画面上の文言が異なる場合があります。

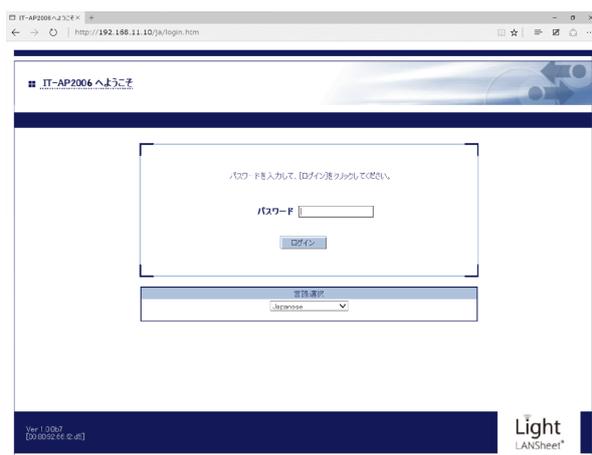
1. Web ブラウザを起動して、本製品の IP アドレスをアドレスバーに入力します。



参考

- 工場出荷時設定の IP アドレスは、「192.168.0.10」です。

2. 本製品の Web ページのログイン画面が表示されます。 パスワードを入力して、「ログイン」をクリックします。



参考

- 工場出荷時設定では、パスワードは何も設定されていないので入力不要です。「ログイン」をクリックしてください。

【基本設定】

本製品を動作させる上で必要な情報を設定します。

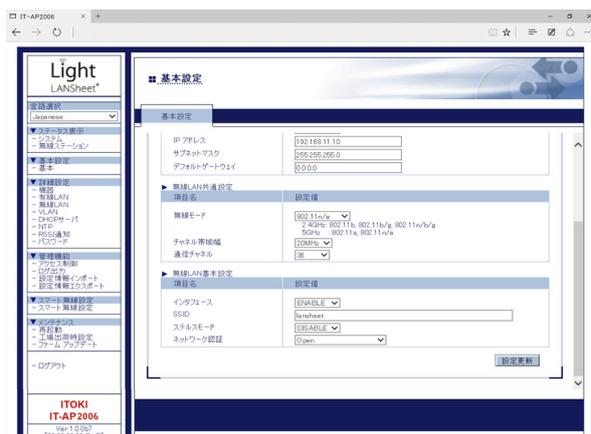
1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「基本設定」 - 「基本」をクリックします。
2. 基本設定画面が表示されます。
表示されたページで各項目を設定します。



参考

- 設定項目については、「A. 付録」 - 「A-1. 設定項目一覧」を参照してください。

3. 各項目を入力したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。



4. 設定更新が完了したら、本製品を再起動します。



参考

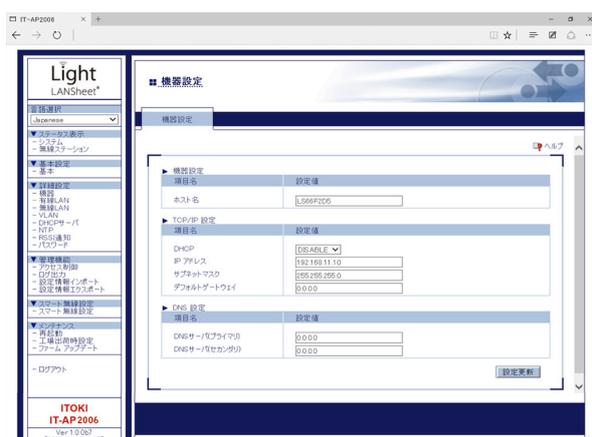
- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。

- 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。

【機器設定】

本製品のホスト名や IP アドレスなどを設定します。

1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「機器」をクリックします。
2. 機器設定画面が表示されます。
表示されたページで各項目を設定します。



- 設定項目については、「A. 付録」 - 「A-1. 設定項目一覧」を参照してください。

参考

3. 各項目を入力したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。
4. 設定更新が完了したら、本製品を再起動します。



- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。

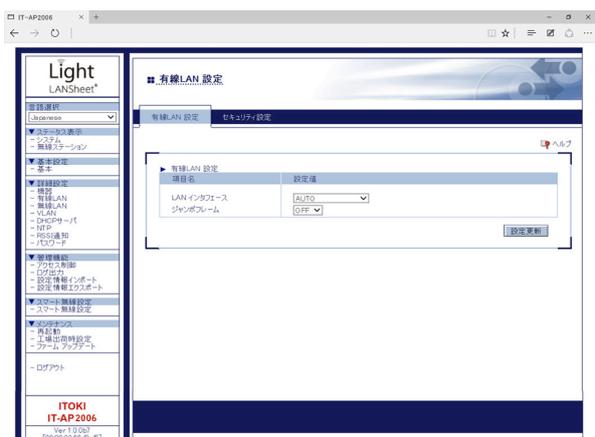
参考

- 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。

【有線 LAN 設定 - 有線 LAN 設定】

本製品の有線 LAN に関する設定をします。

1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「有線 LAN」をクリックします。
2. 有線 LAN 設定画面が表示されます。
表示されたページで各項目を設定します。



参考

- 設定項目については、「A. 付録」 - 「A-1. 設定項目一覧」を参照してください。
- 有線 LAN 設定ページ内の 2 つのタブは切り替えが可能です。タブを切り替える際は「設定更新」をクリックする必要はありません。
- 「セキュリティ設定」では、本製品の有線 LAN に関するセキュリティ機能を設定します。

3. 各項目を入力したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。

4. 設定更新が完了したら、本製品を再起動します。



参考

- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。
- 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。

【無線 LAN- 基本設定】

本製品の無線 LAN に関する設定をします。

1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「無線 LAN」をクリックします。
2. 基本設定画面が表示されます。
表示されたページで各項目を設定します。



参考

- 設定項目については、「A. 付録」 - 「A-1. 設定項目一覧」を参照してください。
- 無線 LAN 設定ページ内の 4 つのタブは切り替えが可能です。タブを切り替える際は「設定更新」をクリックする必要はありません。
- 「セキュリティ設定」では、本製品の無線 LAN に関するセキュリティ機能を設定します。
- 「拡張設定」では、本製品の無線 LAN に関する拡張機能を設定します。



注意

- 本製品を無線ネットワークに接続して使用する場合は、必ず暗号を設定してください。
- IEEE 802.11b/g および IEEE 802.11n/b/g の無線帯域は、対応機器の普及により通信帯域を利用されている場合が多く、伝送に十分な通信帯域を確保できない可能性があります。
- 802.11n/a を使用する場合、本製品は屋外での使用が禁じられています。

3. 各項目を入力したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。
4. 設定更新が完了したら、本製品を再起動します。



参考

- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。
- 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。

【VLAN 設定】

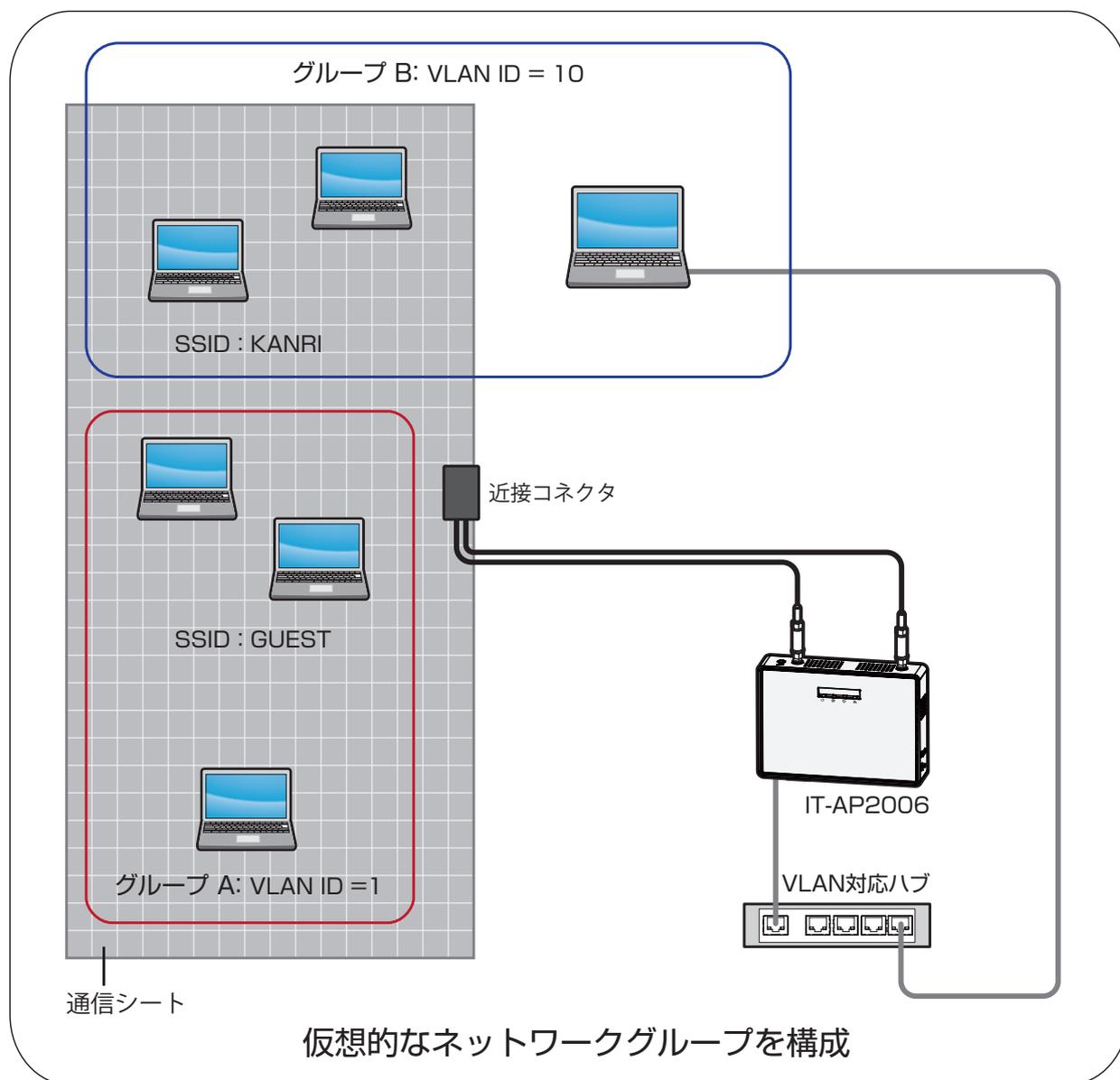
本製品の VLAN 機能に関する設定をします。

本製品は無線 LAN の SSID に VLAN ID を設定できます。

本製品とタグ VLAN 対応のスイッチングハブ（以降、VLAN 対応ハブ）を併用することで、仮想的にネットワークグループを構成できます。

本製品は Multi SSID に対応していますので、最大で 4 つの仮想的なネットワークグループが構成できます。

詳細については、本書の「6-6. VLAN 機能」を参照してください。



【DHCP サーバ設定】

本製品の DHCP サーバ機能に関する設定をします。

1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「DHCP サーバ」をクリックします。
2. DHCP サーバ設定画面が表示されます。
表示されたページで各項目を設定します。



- 設定項目については、「A. 付録」 - 「A-1. 設定項目一覧」を参照してください。

参考

3. 各項目を入力したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。
4. 設定更新が完了したら、本製品を再起動します。



- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。

参考

- 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。

【NTP 設定】

本製品の NTP 機能に関する設定をします。

1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「NTP」をクリックします。
2. NTP 設定画面が表示されます。
表示されたページで「NTP」を「ENABLE」に設定すると、「NTP サーバ」、「ローカルタイムゾーン」の値が設定できるようになります。
NTP サーバの「時刻同期」をクリックすると、本製品に設定した NTP サーバの時刻に同期できます。



3. 各項目を入力したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。
4. 設定更新が完了したら、本製品を再起動します。



参考

- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。
- 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。

【パスワードの設定】

本製品のパスワードに関する設定をします。

1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「パスワード」をクリックします。
2. パスワードの設定画面が表示されます。
表示されたページで新しいパスワードを設定します。



3. パスワードを入力したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。
4. 設定更新が完了したら、本製品を再起動します。



注意

- 工場出荷時設定では、パスワードは何も設定されていないので入力不要です。「ログイン」をクリックしてください。
本製品を公衆ネットワークに接続して使用する場合は、必ずパスワードを変更してください。

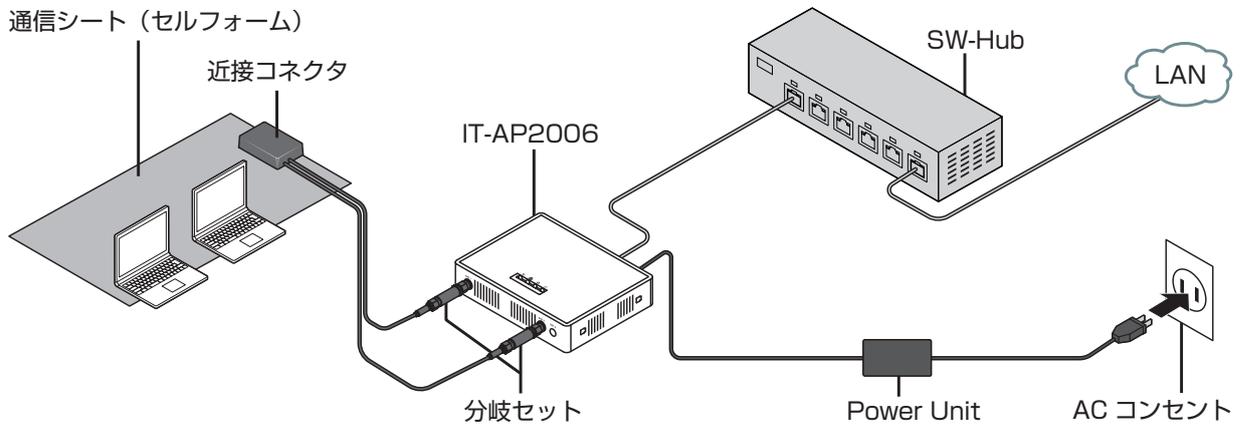


参考

- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。
- 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。

本製品をネットワークに接続し、無線 LAN 端末と接続する

本製品の設定が完了したならネットワークに接続し、無線 LAN 端末を通信シートに載せます。



【パソコンとの接続例】

OS(Windows 10) 標準の無線機能を使用して、パソコンの無線設定を変更し、本製品と接続する方法について説明しています。

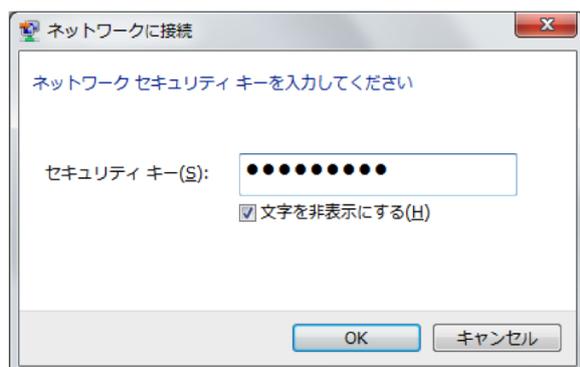
1. タスクトレイのネットワークアイコン () をクリックします。
2. 一覧の中から本製品に設定されている SSID を選択して、「接続」をクリックします。



 - 工場出荷時設定の SSID は、「lansheet」です。

参考

3. 「セキュリティ キー」に、本製品に設定されているセキュリティキーを入力します。ネットワーク認証が「WPA-PSK」、「WPA2-PSK」、「WPA/WPA2-PSK」の場合は共有キーを入力して、「OK」をクリックします。



4. 詳細設定

この章では、本製品の詳細設定について説明しています。

4-1. 設定画面の名称と機能について

本製品にログインすると、システムステータスおよび設定メニュー画面が表示されます。

①

②

③

Light
LANSheet®

言語選択
Japanese

▼ ステータス表示
- システム
- 無線ステーション

▼ 基本設定
- 基本

▼ 詳細設定
- 機器
- 有線LAN
- 無線LAN
- VLAN
- DHCPサーバ
- NTP
- RSSI通知
- パスワード

▼ 管理機能
- アクセス制御
- ログ出力
- 設定情報インポート
- 設定情報エクスポート

▼ メンテナンス
- 再起動
- 工場出荷時設定
- ファーム アップデート

- ログアウト

ITOKI
IT-AP2006
Ver 1.0.0b10
[00:80:92:66:f2:d5]

システムステータス

システムステータス

更新 ヘルプ

▶ TCP/IP情報

項目名	ステータス
IP アドレス	192.168.11.10
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.11.1
DNSサーバ(プライマリ)	192.168.11.1

▶ 無線LAN共通設定

項目名	ステータス
無線モード	802.11n/a
チャンネル帯域幅	20MHz
通信チャンネル	36 ch.

▶ 無線LAN 1 設定

項目名	ステータス
インタフェース	ENABLE
SSID	lansheet
ネットワーク認証	Open
WEP	OFF

▶ 無線LAN 2 設定

項目名	ステータス
インタフェース	DISABLE

▶ 無線LAN 3 設定

項目名	ステータス
インタフェース	DISABLE

① 操作メニュー	本製品各種設定・表示を操作するメニュー
② 更新	システムステータス表示内容を最新の情報に更新するボタン
③ システムステータス	本製品に設定されているの基本情報を表示

4-2. 情報機器（ホスト名、TCP/IP および DNS）の設定

1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「機器」をクリックします。
2. 機器設定画面が表示されます。
表示されたページで各項目（P.41）を設定します。

項目名	設定値
ホスト名	LS86F2D5

項目名	設定値
DHCP	DISABLE
IP アドレス	192.168.11.10
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.11.1

項目名	設定値
DNS サーバ(プライマリ)	0.0.0.0
DNS サーバ(セカンダリ)	0.0.0.0

3. 機器情報の設定が完了したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。設定が完了したら、本製品を再起動します。



- 参考 - 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。
- 参考 - 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。

【ホスト名（本体名称）の変更】

本製品のホスト名の変更を行います。

機器設定	
項目名	設定値
ホスト名	LANsheet

ホスト名は半角 15 文字以下です。他の機器と重複しない名前を設定してください。

【有線 LAN ポート（TCP/IP）情報設定・変更】

本製品の有線 LAN ポートの TCP/IP 情報を設定・変更します。

TCP/IP 設定	
項目名	設定値
DHCP	DISABLE <input checked="" type="checkbox"/>
IP アドレス	192.168.11.10
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.11.1

① DHCP

DHCP サーバから IP アドレスを自動的に取得する場合は、DHCP を「ENABLE」（有効）にします。

② IP アドレス

本製品（有線 LAN ポート）の IP アドレスを設定します。

DHCP が有効の場合は、DHCP で取得した IP アドレスが優先して割り当てられます。

③ サブネットマスク

IP アドレスのサブネットマスクを設定します。

DHCP が有効の場合は、DHCP で取得したサブネットマスクが優先して割り当てられます。

④ デフォルトゲートウェイ

本製品が接続されるゲートウェイアドレスを設定します。DHCP が有効の場合は、DHCP で取得したゲートウェイアドレスが優先して割り当てられます。

* NTP サーバをご使用になる場合はデフォルトゲートウェイアドレスの設定を忘れないでください。

【本製品で利用する DNS サーバの IP アドレス設定】

本製品で利用する DNS サーバの IP アドレスを設定します。

DNS 設定	
項目名	設定値
DNSサーバ(プライマリ)	0.0.0.0
DNSサーバ(セカンダリ)	0.0.0.0

4-3. 有線 LAN の機能およびセキュリティ設定

1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「有線 LAN」をクリックします。
2. 有線 LAN 設定画面が表示されます。
表示されたページで各項目（P.43 ~ P.44）を設定します。



有線 LAN 設定画面には 2 つの設定タブが用意されています。



- ・ 有線 LAN 設定
- ・ セキュリティ設定

3. 設定変更が完了したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。
設定が完了したら、本製品を再起動します。



参考

- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。
- 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。

【有線 LAN 設定・変更】

「有線 LAN 設定」では LAN インタフェースの選択とジャンボフレームの ON/OFF を設定します。



① LAN インタフェース



- ・ 設定可能範囲：AUTO/ 10Base-T Half/ 10Base-T Full/ 100Base-TX Half/ 100base-TX Full/ 1000Base-T Full
- ・ 初期値：AUTO
- ・ 通常は「AUTO」のままご使用ください。電源投入時に本製品を接続している HUB の LINK ランプが点灯しない場合は、この設定を、接続している HUB のネットワーク種別に合わせてください。

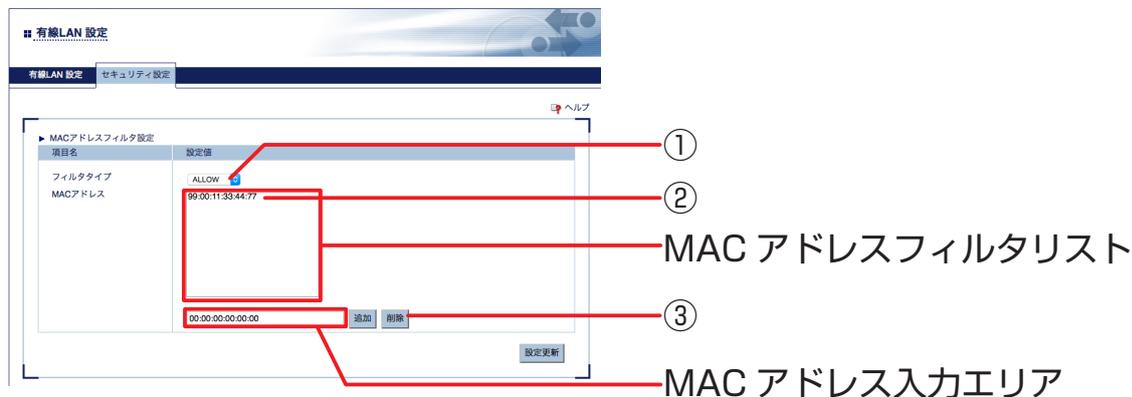
②ジャンボフレーム



- ・ 設定可能範囲：ON/OFF
- ・ ジャンボフレームを有効にした場合、1 フレーム最大 9696 バイト（FCS 4バイトを除く）で TCP/IP 通信を行うことができます。
- ・ 10BASE-T/100BASE-TX 環境で使用する場合は設定を「OFF」（無効）にしてください。

【セキュリティ設定・変更】

有線 LAN の MAC アドレスフィルタの設定を行います。



有線 LAN の MAC アドレスフィルタのタイプには「DISABLE」、「ALLOW」および「DENY」の3つのタイプがあります。

ご利用目的に添って3つのフィルタタイプからどれか1つを選択し、MACアドレスを登録します。



① フィルタタイプ

DISABLE：MAC アドレスフィルタリングを無効にします（工場出荷時）。

ALLOW：MAC アドレスフィルタリストに登録されている機器のみ通信を許可します。

DENY：MAC アドレスフィルタリストに登録されている機器との通信を拒否します。

② MAC アドレス

フィルタリングする MAC アドレスを MAC アドレス入力エリアに入力し、「追加」をクリックします。

MAC アドレスは 32 個まで登録可能です。

③ 登録 MAC アドレス削除

MAC アドレスフィルタリストに表示されている MAC アドレスをクリックして選択し、「削除」ボタンをクリックします。

4-4. 無線 LAN 詳細設定

無線 LAN に関する詳細設定を行います。

1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「無線 LAN」をクリックします。
2. 無線 LAN 設定画面が表示されます。
表示されたページで各項目（P.46 ~ P.60）を設定します。

無線 LAN 設定画面には 4 つの設定タブが用意されています。



- ・ 基本設定
- ・ セキュリティ設定
- ・ 拡張設定
- ・ 受信強度閾値設定

3. 設定変更が完了したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。
設定が完了したら、本製品を再起動します。



参考

- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。
- 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。

【基本設定 - 無線 LAN 共通設定】

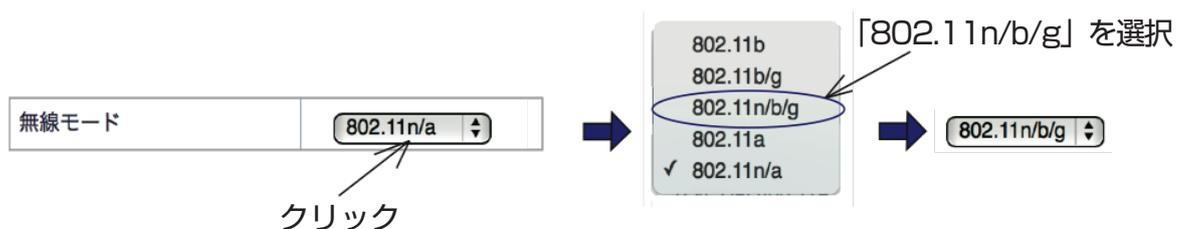
本製品は仮想 SSID（無線インタフェース）を 4 つ（無線 LAN1 - 無線 LAN4）まで設定でき、4 つの無線 LAN インタフェースに共通する項目を「無線 LAN 共通設定」でおこないます。

無線LAN共通設定	
項目名	設定値
無線モード	802.11n/a 2.4GHz: 802.11b, 802.11b/g, 802.11n/b/g 5GHz: 802.11a, 802.11n/a
チャンネル帯域幅	20MHz
通信チャンネル	36

①無線モード

本製品の無線モードには、「802.11b」、「802.11b/g」、「802.11n/b/g」、「802.11a」および「802.11a/n」の5つのモードがあります。

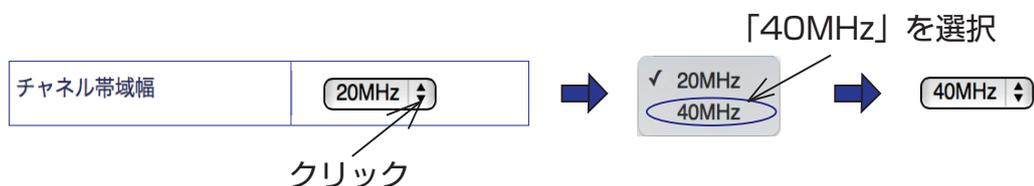
【例：無線モードを「802.11n/b/g」にする】



②チャンネル帯域幅

チャンネル帯域幅は「20MHz」と「40MHz」が使用できますが、帯域幅「40MHz」は無線 LAN モードが「802.11n」の場合のみ動作します。また、設定した通信チャンネルが他の機器で使用されている場合は帯域幅は「20MHz」となります。

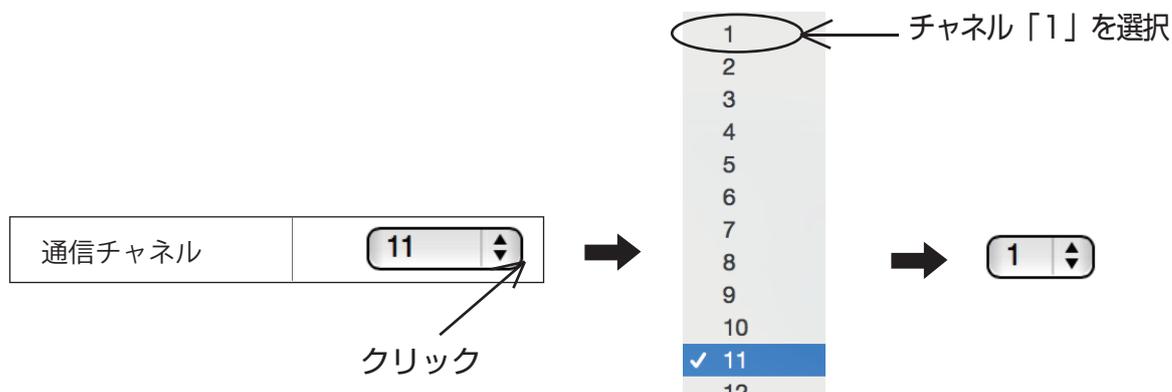
【例：チャンネル帯域幅を「40MHz」にする】



③通信チャンネル設定

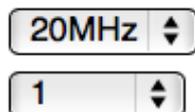
通信チャンネルは「802.11b」、「802.11b/g」、「802.11n/b/g」の場合は「1-13」が、「802.11a」、「802.11n/a」の場合は「36-48」が利用できます。「AUTO」を選択すると自動的に空きチャンネルを探して設定されます。

【例：通信チャンネルを「1」にする】



チャンネル帯域幅を「40MHz」に設定すると拡張チャンネルが自動的に表示されます。拡張チャンネルの変更できません。

【チャンネル帯域幅「20MHz」を選択】



【チャンネル帯域幅「40MHz」を選択】

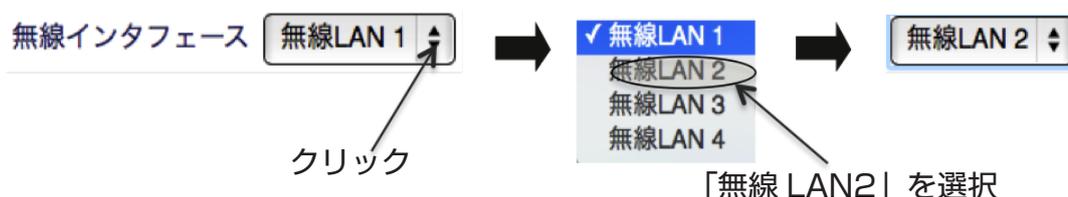


【基本設定 - 無線 LAN 基本設定】

無線 LAN 基本設定は、無線 LAN インタフェースの設定を行います。仮想 SSID (無線インタフェース) を 4 つ (無線 LAN1 - 無線 LAN4) まで設定でき、4 つの無線 LAN インタフェースには「無線 LAN 共通設定」でおこなった設定が適用されます。工場出荷時は「無線 LAN1」が「ENABLE」(有効) となっており、他は「DISABLE」(無効) となっています。1 個以上の SSID を使う場合、無線 LAN2 - 4 を「ENABLE」にします。

項目名	設定値
インタフェース	ENABLE ①
SSID	lansheet ②
VLAN ID	1 ③
ステルスモード	DISABLE ④
ネットワーク認証	Open ⑤

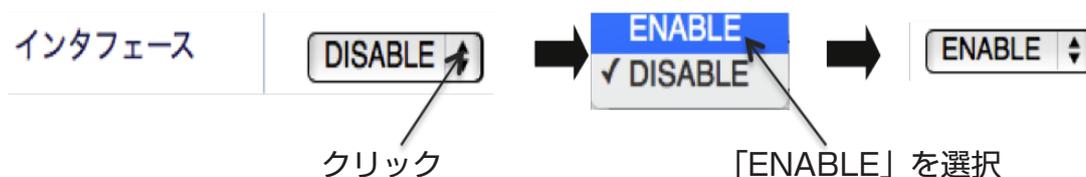
【例：無線インタフェースを「無線 LAN2」にする】



① インタフェース

選択した無線 LAN インタフェースを有効にするには、インタフェースを「ENABLE」にします。また、無効にする場合は、「DISABLE」に設定します。

【例：インタフェースを「ENABLE」にする】



② SSID

SSID を設定します。半角英数文字 1 ~ 32 文字で入力します。

【例：SSID を「lansheet」にする】

SSID |

③ VLAN ID

VLAN の ID (1 - 4096) を設定します。半角英数字で入力します。
この VLAN ID は VLAN が「ENABLE」と設定されている時に機能します。

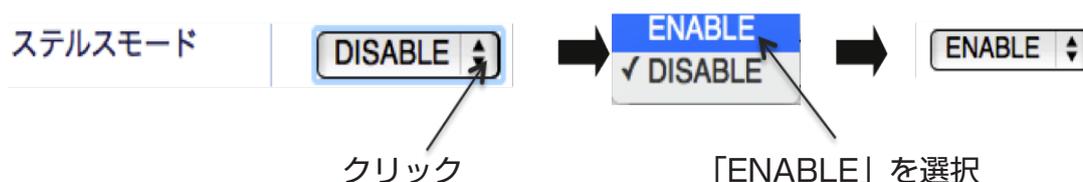
【例：VLAN ID を「1」に設定する】

VLAN ID

④ステルスモード

ステルスモードの「DISABLE」 / 「ENABLE」を設定します。
ステルスモードが「ENABLE」の場合、本製品のビーコンシグナルには SSID の文字列が含まないので本製品の所在が明らかになりません。設定が「DISABLE」となっているとビーコンシグナルに SSID の文字列が含まれるので、本製品の所在 (SSID) が明らかになります。

【例：ステルスモードを「ENABLE」にする】



⑤ ネットワーク認証

本製品（アクセスポイント）と無線 LAN 端末（PC やタブレット端末等）の接続認証方法を設定します。

「ネットワーク認証」が Open の場合は無線 LAN 端末との認証は行わずまた、データの暗号化も行いません。

【例：暗号方式を設定する】

ネットワーク認証を「Open」以外を選択するとデータを暗号化し、本製品と接続する際にキーコードが必要になるので暗号化方式の選択と認証キーの設定項目が表示されます。



① 暗号化方式

「TKIP」、「AES」または「AUTO」を選択します。

強固なセキュリティを確保するために、「WPA/WPA2」を使用することをお勧めします。

「IEEE 802.11n」では、暗号化方式は「AES」のみ使用できます。

② 共有キー

クライアント端末を本製品に接続するときに表示されます。

半角英数字 8 ～ 63 文字で入力します。

③ グループ鍵更新間隔

暗号鍵の更新間隔を分単位で設定します。

「0」を設定すると無効となります。

設定可能範囲は「0 ～ 1440」です。

また、認証方式「WPA-Enterprise」「WPA2-Enterprise」「WPA/WPA2-Enterprise」を選択すると暗号方式と認証サーバ（RADIUS）の設定項目が表示されます。

ネットワーク認証 WPA/WPA2-Enterprise

↓

WPA/WPA2設定	
項目名	設定値
暗号化方式	AES
グループ鍵更新間隔	<input type="text" value="60"/>

RADIUS サーバ設定	
項目名	設定値
サーバIPアドレス	<input type="text" value="0.0.0.0"/>
ポート番号	<input type="text" value="1812"/>
シークレットキー	<input type="text"/>

①サーバ IP アドレス

RADIUS サーバの IP アドレスを設定します。

本設定はネットワーク認証が「802.1X」、「WPA-Enterprise」、「WPA/WPA2-Enterprise」の場合に設定する必要があります。

サーバ IP アドレス

②ポート番号

RADIUS サーバとの通信で使用するポート番号を設定します。

工場出荷時設定は「1812」です。

ポート番号

※設定できる範囲は「1 ～ 65535」です。

※ご使用になるシステムによっては、工場出荷時の設定値と異なることがありますのでご確認ください。

③シークレットキー

RADIUS サーバとの通信で使用するシークレットキーを設定します。

RADIUS サーバに設定されていた値と同じ設定にします。

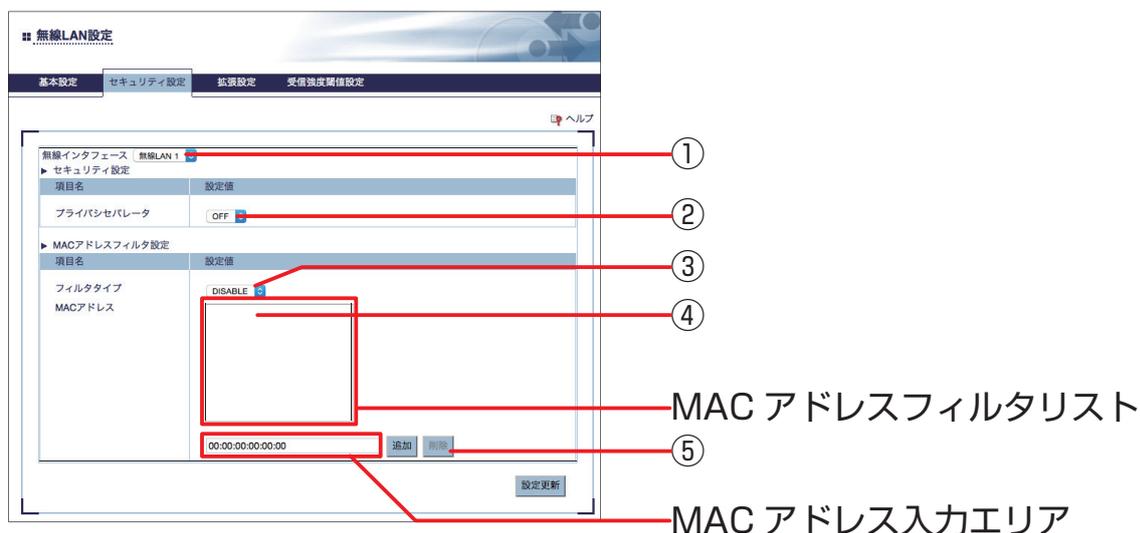
半角英数字 64 文字以内で入力します。

シークレットキー

【セキュリティ設定】

各無線 LAN インタフェース（無線 LAN1 - 無線 LAN4）のセキュリティ項目について設定します。

MAC アドレスフィルタを登録することで、無線 LAN 側から本製品へアクセスする機器を制限することが可能です。



①無線 LAN インタフェース



②プライバシーセパレータ

本製品に接続された無線 LAN 端末間で、通信の禁止・許可を設定することが可能です。

プライバシーセパレータが「ON」(有効)になっている無線 LAN インタフェースは、他の無線 LAN インタフェースへデータのフォワードをしません。有線 LAN インタフェースのみへ、無線 LAN からのデータをフォワードします。

セキュリティ設定	
項目名	設定値
プライバシーセパレータ	OFF

③フィルタタイプ

DISABLE：全無線 LAN 端末と通信が可能です。

ALLOW：MAC アドレスフィルタリストに登録されている無線端末のみ通信を許可します。

D E N Y：MAC アドレスフィルタに登録されている無線端末との接続を拒否します。

④ MAC アドレス

フィルタリングする MAC アドレスを MAC アドレス入力エリアに入力し、「追加」をクリックします。

各無線 LAN インタフェースごとに 100 個まで設定できます。

⑤登録 MAC アドレス削除

MAC アドレスフィルタリストに表示されている MAC アドレスをクリックして選択し、「削除」ボタンをクリックします。

【拡張設定】

拡張設定画面では無線 LAN 機能の「拡張設定」、「ミニマムレート設定」、「ストリーム数選択設定」、「QoS(WMM) 設定 (AP 用)」および「QoS/(WMM) 設定 (ステーション用)」の設定・変更をおこないます。

また、画面下左隅に選択しているフィールドの操作方法が表示され、画面最後の右隅に「設定更新」ボタンが用意されています。設定・変更が終わりましたら「設定更新」ボタンをクリックしてください。「設定更新」ボタンをクリックせずに他の画面に移動すると設定・変更した内容が失われます。

無線LAN設定

基本設定 セキュリティ設定 **拡張設定** 送信強度調整設定

ヘルプ

▶ 拡張設定

項目名	設定値
ビーコン間隔 (ミリ秒)	100
DTIM	1
2.4GHz 送信強度 (dBm)	10
5GHz 送信強度 (dBm)	0
RTS/CTS	2340
Short Preamble	ON
A-MPSDU	ON
A-MPSDUサイズ	8830
A-MSDU	OFF
Short Guard Interval	ON

▶ ミニマムレート設定

項目名	設定値
2.4GHz データフレーム (Mbps)	20
2.4GHz マネージメントフレーム (Mbps)	24
5GHz データフレーム (Mbps)	20
5GHz マネージメントフレーム (Mbps)	24

▶ ストリーム数選択設定

項目名	設定値
ストリーム数	2

▶ QoS(WMM) 設定 (AP用)

項目名	ECWmin	ECWmax	AFSN	TxOP/Limit
BE	4	8	3	0
BK	4	10	2	0
VI	3	4	1	3008
VO	2	3	1	1504

▶ QoS(WMM) 設定 (ステーション用)

項目名	ECWmin	ECWmax	AFSN	TxOP/Limit	ACM
BE	4	10	3	0	OFF
BK	4	10	2	0	OFF
VI	3	4	2	3008	OFF
VO	2	3	2	1504	OFF

設定更新

【拡張設定 - 拡張設定】

「ビーコン間隔 (ミリ秒)」、「DTIM」、「2.4GHz 送信強度低減 (dBm)」、「5GHz 送信強度低減 (dBm)」、「RTS 閾値」、「Short Preamble」、「A-MPDU」、「A-MPDU サイズ」、「A-MSDU」、「Short Guard Interval」の設定・変更をおこないます。

項目名	設定値
ビーコン間隔 (ミリ秒)	100
DTIM	1
2.4GHz 送信強度低減(dBm)	10
5GHz 送信強度低減(dBm)	9
RTS閾値	2348
Short Preamble	ON
A-MPDU	ON
A-MPDUサイズ	85535
A-MSDU	OFF
Short Guard Interval	ON

①ビーコン間隔

本製品から発するビーコンの間隔を設定・変更します。

ビーコンは、無線 LAN 端末において、本製品を検出させるために一定間隔で送信するパケットです。

設定値は「20 - 1000」の整数値、単位は ms です。支障がない限り工場出荷時の設定値でご使用ください。

工場出荷時の設定値は「100ms」に設定されています。

② DTIM(Delivery Traffic Indication Message)

DTIM とは、パワーセーブしている端末に対して、ブロードキャスト・マルチキャストパケット転送を伝えるメッセージのことです。

DTIM をビーコンに挿入する間隔を設定します。

設定できる範囲は「1 - 255」です。

※設定を変更すると、正常に通信できないことがありますので、特に必要がない場合は工場出荷時の設定値でご使用ください。

③送信強度低減

本製品に内蔵された無線 LAN 送信出力の低減量を設定します。

2.4GHz と 5GHz 毎に設定します。

設定値は各々 1dBm 単位で「0 - 20」の範囲で設定可能です。

低減量が少ないと、電波強度が大きくなり、LAN シート近傍以外でも通信できる場合があります。

また、同一チャンネルで使用する LAN シートが隣にある場合、隣のシートに干渉を及ぼすおそれがありますのでご注意ください。

【パワーを低くする目的】

- ・ 本製品（通信シートを含む）からの電波漏洩を極力小さくしたい場合
- ・ 通信エリアを通信シート近傍に限定してセキュリティを高めたいとき

【パワーを高くする目的】

- ・ 無線 LAN 端末で受信できる電波強度を大きくしたい場合
- ・ 他の電子製品が発するノイズや他の無線 LAN による影響を軽減したい場合

④ RTS 閾値

RTS (Request To Send) パケットサイズ閾値を設定します。

送信データの衝突をさけるため、送信データが RTS 閾値より大きい場合、送信前に RTS パケットを送信します。

パケットサイズを低めに設定すると、ひんぱんに RTS パケットが送出されるので、一般的にスループットは低下します。

⑤ Short Preamble

ショートプリアンブル (Short Preamble) ON/OFF を設定します。

ショートプリアンブルを「ON」にすると無線 LAN 間の通信速度が速くなりますが、ショートプリアンブルに対応していない無線 LAN 端末のとき、通信ができなくなる恐れがあります。この場合は、「OFF」にします。

⑥ A-MPDU

A-MPDU (Aggregation MAC Protocol Data Unit) モードを ON/OFF を設定します。A-MPDU は 802.11n で採用されているフレームアグリゲーション (フレーム集約) という技術で、フレームを連結することで通信速度を向上させています。

無線モード「802.11n/b/g」または「802.11n/a」でのみ動作します。

⑦ A-MPDU サイズ

A-MPDU のフレームサイズを設定します。

設定可能範囲は「4096/8192/16384/32768/65535」です。

工場出荷時は「65535」に設定されています。

⑧ A-MSDU

A-MSDU(Aggregation MAC Service Data Unit) を ON/OFF に設定します。

A-MPDU と同様ですが、フレームを連結 (Aggregation) する場合、MAC ヘッダーを単一にし、フレームを連結する方法です。

A-MPDU 同様、無線モード「802.11n/b/g」または「802.11n/a」でのみ動作します。

⑨ Short Guard Interval

Short Guard Interval の ON/OFF を設定します。

Short Guard Interval は「802.11a/g」では「800ns」となっていますが、「11n」のオプションで「400ns」にできます。

Short Guard Interval を「ON」にするとスループットが向上する場合があります。無線モードが「802.11n/a」、「802.11n/b/g」およびチャンネル幅が「40MHz」の場合に動作します。

【拡張設定 - ミニмумレート設定】

本製品の通信速度を制限するとき使用する最低レートを設定します。

無線 LAN 端末が対応していないレートを設定すると、本製品と接続できなくなりますので、ご使用の環境に応じて設定してください。

▶ ミニмумレート設定

項目名	設定値
2.4GHz データフレーム(Mbps)	36
2.4GHz マネージメントフレーム(Mbps)	24
5GHz データフレーム(Mbps)	36
5GHz マネージメントフレーム(Mbps)	24

① データフレーム

無線 LAN 通信のデータフレームにおいて、通信スピードの最低レートを設定します。

設定値は「1 - 300」の整数値です。2.4GHz、5GHz 毎に設定します。

また、LAN シートと無線 LAN 端末の通信範囲を設定値により調整することもできます。

802.11n 規格の最低レートを設定すると、本製品と接続できる無線 LAN 端末は 802.11n 対応の無線 LAN 端末に限られます。

② マネージメントフレーム

無線 LAN 通信の管理フレームにおいて、通信スピードの最低レートを設定します。

【設定例】

データフレーム：36 マネージメントフレーム：24

上記設定では、データフレームの通信スピードは 36Mbps 以上、マネージメントフレームの通信スピードは 24Mbps 以上となります。802.11b/g/n (2.4GHz) モードで利用する場合、802.11b の無線 LAN 端末は接続できません。



注意

無線 LAN の電波は通信スピードが遅いほど通信距離が長くなります。本製品が発するビーコン信号（管理フレーム：本製品を検出させるために一定間隔で送信するパケット。本製品に設定された「SSID」が含まれる。）の到達距離を短くする場合、マネージメントフレームのスピードを速くしてください。ただし、データフレームのスピードより遅くなるようミニмумレートの値を設定します。

【拡張設定 - ストリーム数選択設定】

本製品で使用するストリーム数を設定します。

本製品に接続する別売の近接コネクタによって「2」または「1」を設定します。

▶ ストリーム数選択設定

項目名	設定値
ストリーム数	2

【拡張設定 -QoS(WMM) 設定設 AP 用】

本製品の WMM 機能を使用した無線 LAN 通信において、本製品から無線 LAN 端末へのデータに対する優先度を設定する EDCA(Enhanced Distributed Channel Access) パラメータの設定です。

▶ QoS(WMM) 設定(AP用)

項目名	ECWmin	ECWmax	AIFSN	TxOPLimit
BE	4	6	3	0
BK	4	10	7	0
VI	3	4	1	3008
VO	2	3	1	1504

【拡張設定 -QoS(WMM) 設定ステーション用】

各無線 LAN 端末から本製品へのデータに対する優先度を設定する

EDCA(Enhanced Distributed Channel Access) パラメータの設定です。

▶ QoS(WMM) 設定(ステーション用)

項目名	ECWmin	ECWmax	AIFSN	TxOPLimit	ACM
BE	4	10	3	0	OFF
BK	4	10	7	0	OFF
VI	3	4	2	3008	OFF
VO	2	3	2	1504	OFF

【受信強度閾値設定】

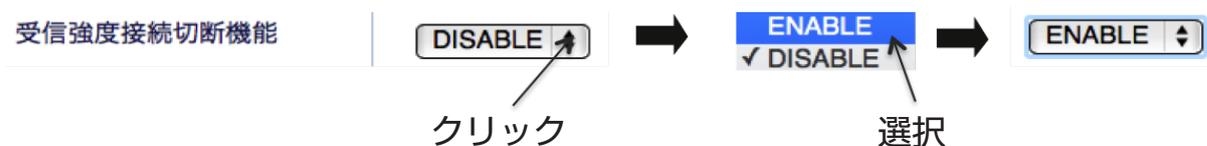
本機能は、本製品が無線 LAN 端末からの受信電波の受信強度によって接続・切断を行うパラメータ（本製品が検知する無線 LAN 端末の受信強度）を設定します。



①受信強度接続切断機能

接続・切断の受信強度の閾値を設定します。

本機能を有効にするには「受信強度接続切断機能」を「ENABLE」にします。



②接続受信強度閾値 (dBm)

接続要求の無線 LAN 端末からの受信強度が設定された閾値以上の場合、無線 LAN 端末と接続します。詳細は付録 P.109 を参照ください。

③切断受信強度閾値 (dBm)

接続している無線 LAN 端末の受信強度が、定されている値より少なくなったなら、接続を切断します。

④再接続インターバルタイム (秒)

切断した無線 LAN 端末との再接続を可能とする時間です。

4-5. VLAN 設定

VLAN に関する詳細設定を行います。

1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「VLAN」 をクリックします。
2. VLAN 設定の画面が表示されます。
表示されたページで各項目を設定します。

The screenshot shows the 'VLAN設定' (VLAN Configuration) page. It features a table for 'IEEE802.1Q VLAN 設定' (IEEE802.1Q VLAN Settings) and a '管理用VLAN ID' (Management VLAN ID) field. Red lines with numbered callouts (1-6) point to the following elements:

項目名	設定値
VLAN	DISABLE <input checked="" type="checkbox"/>
ネイティブVLAN ID	1
無線LAN 1 VLAN ID	1
無線LAN 2 VLAN ID	1
無線LAN 3 VLAN ID	1
無線LAN 4 VLAN ID	1

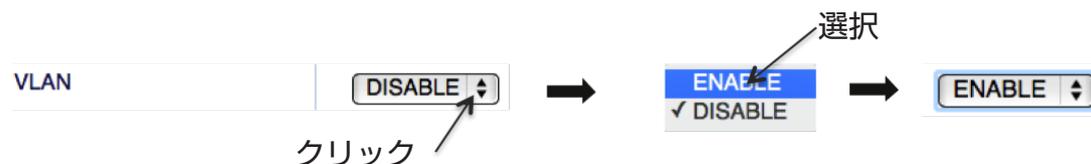
管理用VLAN ID: 1

① points to the 'DISABLE' dropdown menu.
② points to the 'ネイティブVLAN ID' input field.
③ points to the '無線LAN 1 VLAN ID' input field.
④ points to the '無線LAN 2 VLAN ID' input field.
⑤ points to the '無線LAN 3 VLAN ID' input field.
⑥ points to the '無線LAN 4 VLAN ID' input field.

本製品は Multi SSID に対応していますので、最大で 4 つの仮想的なネットワークグループが構成できます。

① VLAN

「ENABLE」 にすると VLAN ID の設定が可能になります。



②ネイティブ VLAN ID

ネイティブ VLAN は、IEEE 802.1Q 方式の VLAN で、トランクリンク上で唯一タグを付けずに送受信される VLAN のことです。

工場出荷時は VLAN ID が 1 のネットワーク (VLAN1) がネイティブ VLAN となっています。

タグのついていないフレームを特定の VLAN に所属しているとみなして処理する仕組みで、VLAN を設定できないコンピュータなどを接続したり、経路上に VLAN を理解しない中継機器がある場合でも通信ができます。

③無線 LAN1 VLAN ID

無線 LAN1 の VLAN ID を設定します。

④無線 LAN2 VLAN ID

無線 LAN2 の VLAN ID を設定します。

⑤無線 LAN3 VLAN ID

無線 LAN3 の VLAN ID を設定します。

⑥無線 LAN4 VLAN ID

無線 LAN4 の VLAN ID を設定します。

⑦管理用 VLAN ID

管理者用 VLAN ID を設定します。

「ネイティブ VLAN ID」と「管理用 VLAN ID」を同じ値に設定すれば、VLAN に非対応のハブからでも本製品にアクセスできます。「ネイティブ VLAN ID」と「管理用 VLAN ID」には同じ VLAN ID の設定を推奨します。

- 3.** 各項目を入力したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。設定が完了したら、本製品を再起動します。



- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。
- 参考 - 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。

4-6. DHCP サーバ設定

DHCP サーバ接続に関する詳細設定を行います。

1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「DHCP サーバ」をクリックします。
2. DHCP サーバ設定の画面が表示されます。
表示されたページで各項目を設定します。

項目名	設定値
DHCP サーバ機能	ENABLE
開始IPアドレス	192.168.0.100
終了IPアドレス	192.168.0.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1
DNSサーバアドレス	192.168.0.1
リース期間	44日 23時間 59分

「DHCP サーバ設定」に必要項目を入力します。

① DHCP サーバ機能

「ENABLE」を選択すると、以下の設定ができるようになりますので、各項目を設定します。

② 開始 IP アドレス

③ 終了 IP アドレス

④ サブネットマスク

⑤ デフォルトゲートウェイ

⑥ DNS サーバアドレス

⑦ リース期間

リース期間の設定が 0 日 0 時間 0 分の場合、リース期間は 10 日間となります。

3. 各項目を入力したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。
設定が完了したら、本製品を再起動します。



本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。

参考 - 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。

4-7. NTP 設定

NTP 機能に関する詳細設定を行います。

1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「NTP」 をクリックします。
2. NTP 設定の画面が表示されます。
表示されたページで各項目を設定します。



① NTP

「DISABLE」を「ENABLE」にすると「NTP サーバ」、「ローカルタイムゾーン」の入力が可能となるとともに時刻同期画面が表示されます。

NTP サーバアドレスを入力し、「時刻同期」をクリックすると、本製品に設定した NTP サーバの時刻に同期できます。



※ NTP サーバアドレスを URL で設定する場合は、「機器」設定で必ず DNS サーバアドレスを設定してください。

3. 各項目を入力したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。
設定が完了したら、本製品を再起動します。



- 参考 - 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。
- 参考 - 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。

4-8. RSSI 通知設定

本製品が検出した無線 LAN 端末の RSSI をサーバに通知する機能に関する詳細設定を行います。

1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「RSSI 通知」をクリックします。
2. RSSI 通知設定の画面が表示されます。
表示されたページで各項目を設定します。

項目名	設定値
通知サーバIPアドレス	192.168.11.203
通知ポート	25615
通知RSSI閾値	17
タイムアウト	500

設定更新

本製品が検出した無線 LAN 端末の RSSI をサーバに通知する機能に関する詳細設定を行います。

①通知サーバ IP アドレス

通知先のサーバ IP アドレスを設定します。設定された RSSI 閾値を超える無線 LAN 端末を検出したなら通知サーバに検出した無線 LAN 端末の MAC アドレスを通知します。IP アドレス「0.0.0.0」を設定することによりこの機能を無効にできます。

②通知ポート

通知サーバと通信する TCP/IP ポート番号です。
(工場出荷時：25615)

③通知 RSSI 閾値

本製品が無線 LAN 端末の MAC アドレスを通知サーバに通知するかどうかを決める受信強度閾値です。設定可能範囲は「0～255」です。

④タイムアウト

通知サーバへ通知するインターバル時間 [msec] です。子機の RSSI 監視も本設定毎に行われます。設定可能範囲は「500～3600000」です。

本機能が有効な場合、プロミスキャスモードで動作するためスループットが低下します。

- 3.** 各項目を入力したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。
設定が完了したら、本製品を再起動します。



参考

- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。
- 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。

4-9. パスワード設定

本製品にログインする時に必要なパスワードの設定を行います。

1. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「パスワード」をクリックします。
2. パスワードの設定の画面が表示されます。
表示されたページで各項目を設定します。

■ パスワードの設定

パスワードの設定

パスワードを設定することで、設定ページへのアクセスを制限することができます。

※設定したパスワードを忘れてしまうと、全ての設定情報を工場出荷時設定に戻さない限り、設定変更ができなくなりますので、パスワードは大切に保管してください。

ヘルプ

▶ 設定するパスワードを入力してください。

新しいパスワード:

新しいパスワードの確認:

設定更新

工場出荷時、パスワードの値は空白（無し）となっています。

3. パスワードの入力が完了したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。設定が完了したら、本製品を再起動します。



参考

- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。

5. 無線機器との接続

この章では、パソコンや無線機器を本製品と同じ無線設定にして、通信する方法について説明しています。

5-1. パソコンとの接続

OS 標準の無線機能を使用して、パソコンの無線設定を変更し、本製品と接続する方法について説明しています。

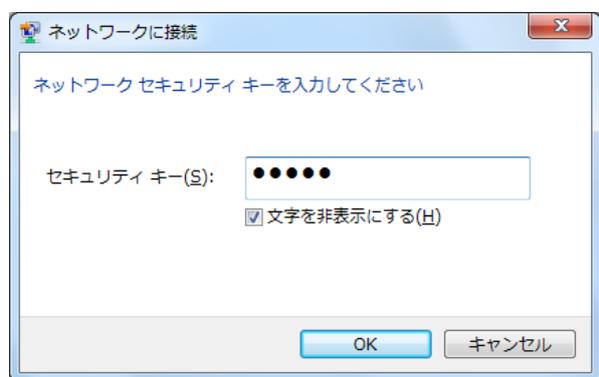
1. タスクトレイのネットワークアイコン () をクリックします。
2. 一覧の中から本製品に設定されている SSID を選択して、「接続」をクリックします。



- 工場出荷時設定の SSID は、本製品裏面のラベルに記載されています。

参考

3. 「セキュリティ キー」に、本製品に設定されている WEP キー（ネットワーク認証が WPA-PSK、WPA2-PSK、WPA/WPA2-PSK の場合は共有キー）を入力して、「OK」をクリックします。



- 工場出荷時設定のセキュリティ キーは、本製品裏面のラベルに「Key」として記載されています。

参考

6. 本製品の機能

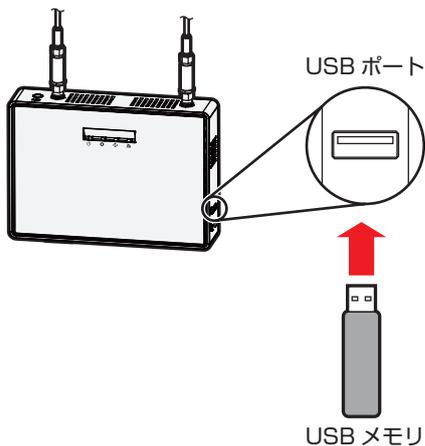
この章では、本製品が搭載する機能について説明しています。

6-1. ログ出力機能

アクセスログなどの各種ログメッセージを、Syslog サーバへの送信と本製品に接続した USB ストレージに出力して保存します。本章ではログ出力機能の設定方法と USB ストレージに保存したログの取得方法について説明します。

設定前の準備

1. USB ストレージを本製品に接続します。Syslog サーバに出力する場合は必要ありません。



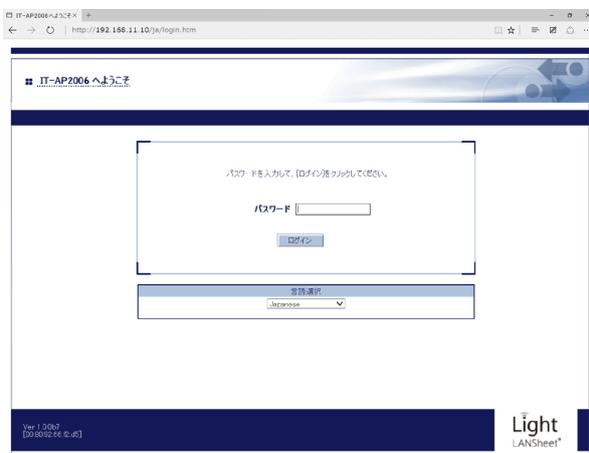
ログを USB ストレージに保存する場合は、USB メモリなどの USB ストレージを 1 つ用意して、本製品に接続してください。

2. 本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「管理機能」 - 「ログ出力」をクリックします。
ログ出力画面が表示されます。



ログ出力の設定

1. Web ブラウザを使って本製品にログインします。



2. 本製品の Web ページが表示されます。

本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「管理機能」 - 「ログ出力」をクリックします。

3. ログ出力画面が表示されます。

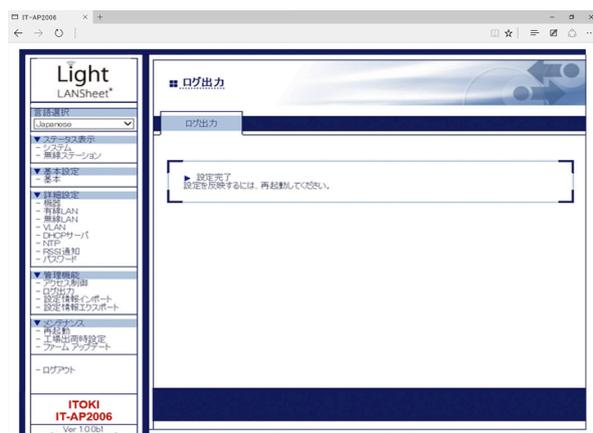
出力先とファイル名などを設定して Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。



参考

- USB ストレージに保存するときは「USB ログ出力」を「ENABLE」に設定して、ファイル名などを設定します。
- Syslog サーバへ送信するときは「Syslog サーバ ログ出力」を「ENABLE」に設定して送信先の Syslog サーバを設定します。
- ログの USB ストレージへの保存と Syslog サーバへの送信は、併用できます。出力されるログの内容は同じです。
- 設定項目については、「A. 付録」 - 「A-1. 設定項目一覧」を参照してください。

4. 設定更新が完了したら、本製品を再起動します。

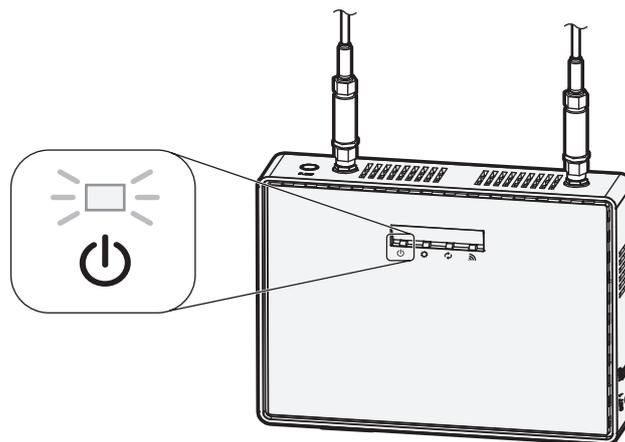


- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。
- 参考 - 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。
- ログの出力は、再起動後に開始されます。

ログ出力中に USB ストレージを取り外したときの対処方法

USB ストレージへのログ出力機能を有効にしているときは、本製品から USB ストレージを取り外さないでください。

USB ストレージへのログ出力機能を停止せずに USB ストレージを取り外したときは、本製品の POWER LED が赤色で点滅します。



IT-AP2006

この状態になったときは、以下の手順で動作を復帰させてください。

1. 取り外した USB ストレージをパソコンに接続して、使用可能か確認します。



参考

- データが破損しているときは、フォーマットしてください。

2. パソコンから USB ストレージを取り外して、本製品に接続します。

3. 本製品を再起動します。



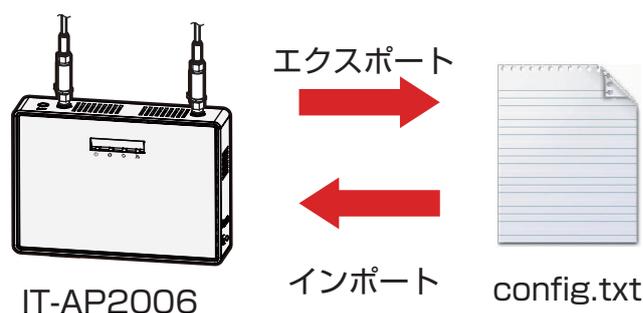
参考

- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。

- ログの出力は、再起動後に開始されます。

6-2. 設定インポート / エクスポート機能

設定情報をエクスポートすることで、本製品の設定情報を外部に保存できます。また、保存した設定情報をインポートすることで、本製品を設定できます。インポート / エクスポートでは、HTTP による転送が可能ですので、Web ブラウザをご利用ください。ここでは Web ブラウザでの手順について説明します。



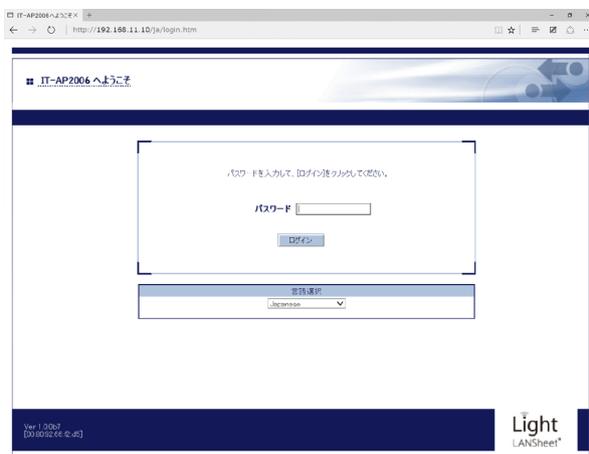
注意

- ご利用になる環境や Web ブラウザによって多少表示が異なる場合があります。
- インポートする設定情報ファイルは、エクスポートした設定情報ファイルを使用します。
- エクスポートした設定情報ファイルは、ファイル名の変更や編集をしないでください。ファイルを編集すると、インポートできない場合があります。
- 設定情報ファイルをエクスポートした本製品とインポートする本製品のファームウェアのバージョンが異なる場合は、インポートできない場合があります。

Web ページからエクスポート / インポートする

【Web ページからエクスポートする】

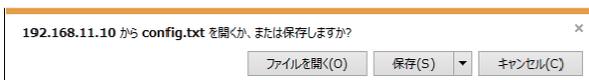
1. Web ブラウザを使って本製品にログインします。



2. 本製品の Web ページが表示されます。
本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「管理機能」 - 「設定情報エクスポート」をクリックします。
3. 設定情報エクスポート画面が表示されます。
「はい」をクリックします。



4. 設定情報ファイル (config.txt) の保存先を確認するメッセージが表示されます。
「保存」をクリックします。

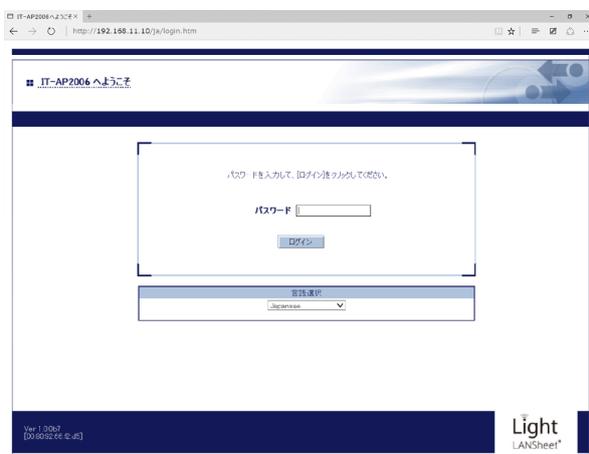


「▼」をクリックすると、「名前を付けて保存」が選択できます。

参考

【Web ページからインポートする】

1. Web ブラウザを使って本製品にログインします。

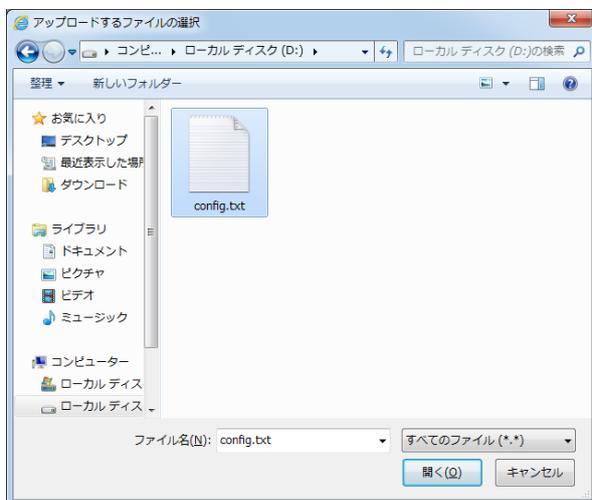


2. 本製品の Web ページが表示されます。
本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「管理機能」 - 「設定情報インポート」をクリックします。

3. 設定情報インポート画面が表示されます。
「ファイルを選択」をクリックします。



4. アップロードするファイルの選択画面が表示されます。
インポートする設定情報ファイル (config.txt) を指定して「開く」をクリック
します。

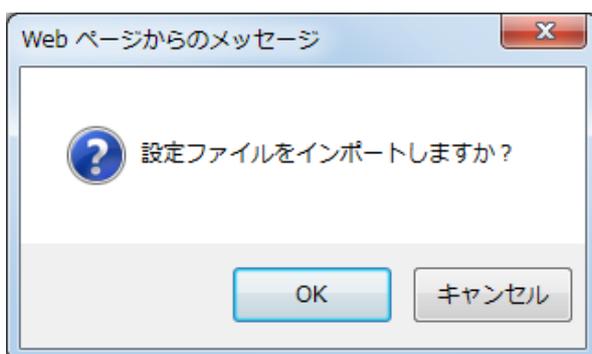


注意 - インポートする設定情報ファイルは、エクスポートした設定情報ファイルから選択します。

5. 設定情報インポート画面の「新しい設定ファイル」に、指定した設定情報ファイル
が表示されていることを確認して、「設定更新」をクリックします。



6. 設定ファイルのインポート確認画面が表示されます。
「OK」をクリックします。



7. インポートが完了すると設定完了画面が表示されます。
インポートした設定を反映するため、本製品を再起動します。



参考

- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。

6-3. DHCP サーバ機能

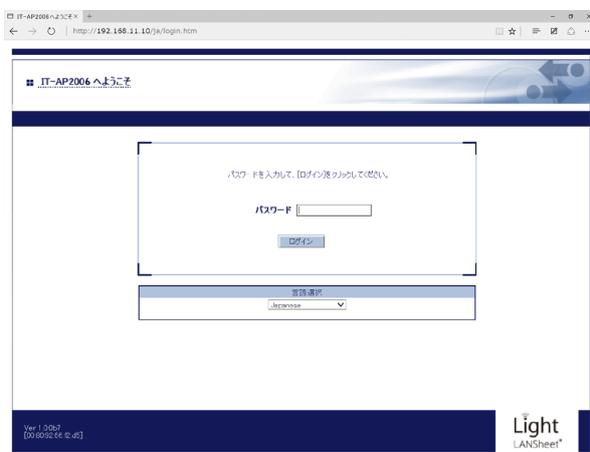
本製品の「DHCP サーバ機能」を使用すると、ネットワーク上のパソコンやネットワーク機器に自動的に IP アドレスを割り当てることができます。



注意

- 本製品の DHCP サーバ機能を利用してパソコンに自動で IP アドレスを割り当てる場合、パソコンの設定を「IP アドレスを自動的に取得する」設定にする必要があります。

1. Web ブラウザを使って本製品にログインします。



2. 本製品の Web ページが表示されます。

本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「DHCP サーバ」をクリックします。

3. 「DHCP サーバ設定」に必要項目を入力します。
「DHCP サーバ機能」で「ENABLE」を選択すると、以下の設定ができるようになりますので、各項目を設定します。
- ・ 開始 IP アドレス
 - ・ 終了 IP アドレス
 - ・ サブネットマスク
 - ・ デフォルトゲートウェイ
 - ・ DNS サーバアドレス
 - ・ リース期間

項目名	設定値
DHCP サーバ機能	ENABLE
開始IPアドレス	192.168.0.100
終了IPアドレス	192.168.0.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1
DNSサーバアドレス	192.168.0.1
リース期間	44 日 23 時間 59 分

4. 各項目を入力したら、Web ページ右下にある「設定更新」をクリックします。

5. 設定更新が完了したら、本製品を再起動します。



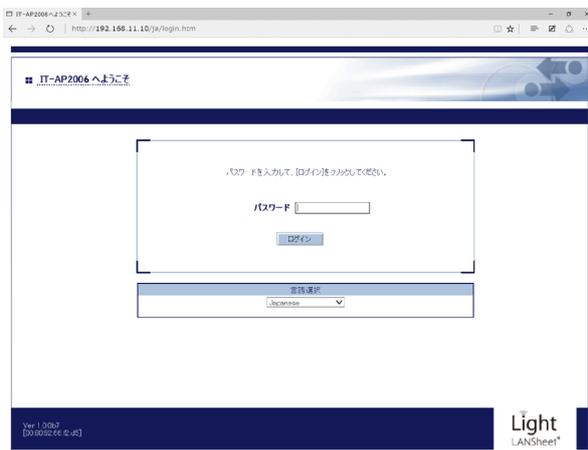
参考

- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。

6-4. Web ブラウザによるステータス監視機能

本製品の Web ブラウザによるステータス監視機能について説明します。

1. Web ブラウザを使って本製品にログインします。



2. 本製品の Web ページが表示されます。

ログインすると、システムステータスページが表示されて、TCP/IP 情報や無線 LAN 設定情報を参照することができます。



参考

- 既にログインしている場合は、Web ページの左側にあるメニューから、「ステータス表示」- 「システム」をクリックすると、システムステータスページが表示されます。
- メニューから、「ステータス表示」- 「無線ステーション」をクリックすると、無線ステーションステータスページが表示されます。無線接続されているステーションの MAC アドレスと RSSI (電波受信強度)、および IP アドレスを参照できます。

6-5. メンテナンス機能

本製品の再起動

【製品本体で再起動する】

1. 本製品の AC アダプタのプラグを電源コンセントから抜きます。



参考

- PoE による受電の場合は、ネットワークケーブルを抜きます。

2. 本製品の AC アダプタのプラグを電源コンセントに差します。



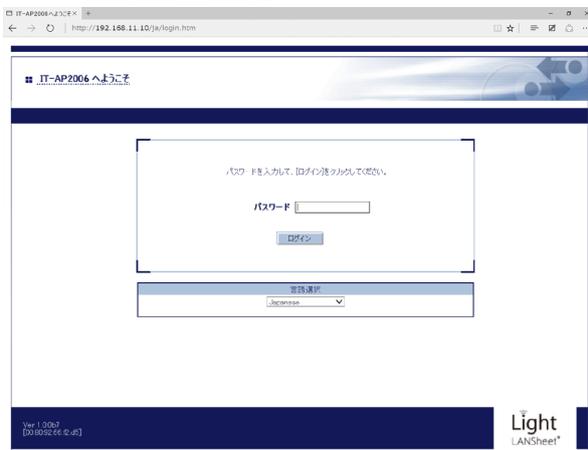
参考

- PoE による受電の場合は、ネットワークケーブルを差します。

3. Power LED が橙点滅から緑点灯に変わったら、再起動は完了です。

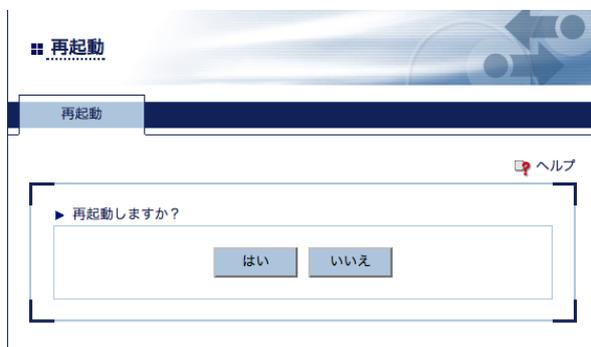
【Web ページから再起動する】

1. Web ブラウザを使って本製品にログインします。



2. 本製品の Web ページが表示されます。
本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「メンテナンス」 - 「再起動」をクリックします。

3. 表示されたページで「はい」をクリックします。



4. Power LED が橙点滅から緑点灯に変わったら、再起動は完了です。

5. Web ブラウザを終了します。

設定の初期化

【製品本体で初期化する】

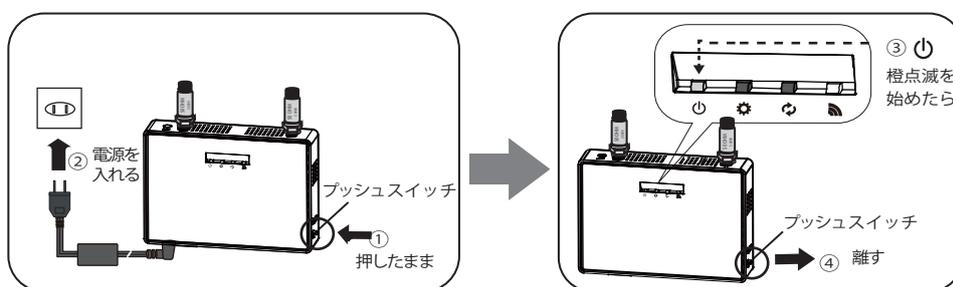
1. 本製品の AC アダプタのプラグを電源コンセントから抜きます。



参考

- PoE による受電の場合は、ネットワークケーブルを抜きます。

2. 本製品の側面にあるプッシュスイッチ（SET1）を押したまま、本製品の AC アダプタのプラグを電源コンセントに差します。Power LED が橙点滅を始めたら、プッシュスイッチを離します。



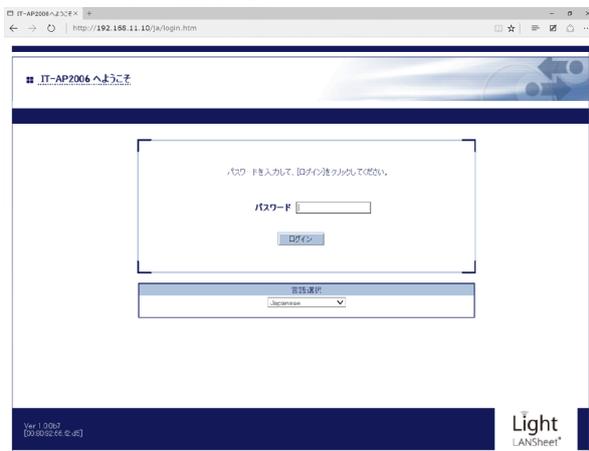
参考

- PoE による受電の場合は、本製品の側面にあるプッシュスイッチ（SET1）を押したまま、ネットワークケーブルを差します。

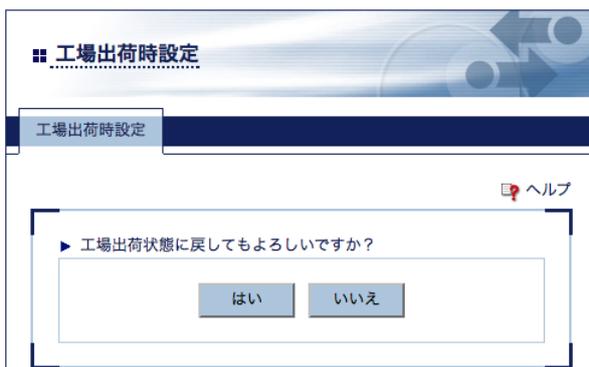
3. Power LED が橙点滅から緑点灯に変わったら、初期化は完了です。

【Web ページから初期化する】

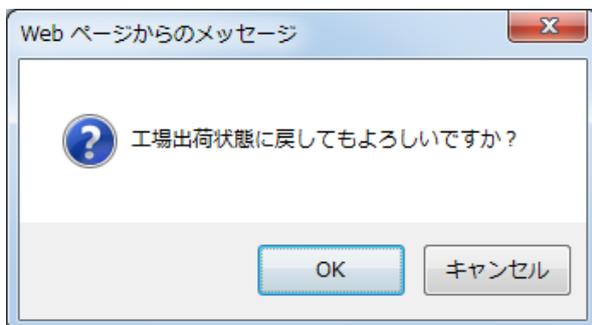
1. Web ブラウザを使って本製品にログインします。



2. 本製品の Web ページが表示されます。
本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「メンテナンス」 - 「工場出荷時設定」をクリックします。
3. 表示されたページで「はい」をクリックします。



4. 確認メッセージが表示されます。
「OK」をクリックします。



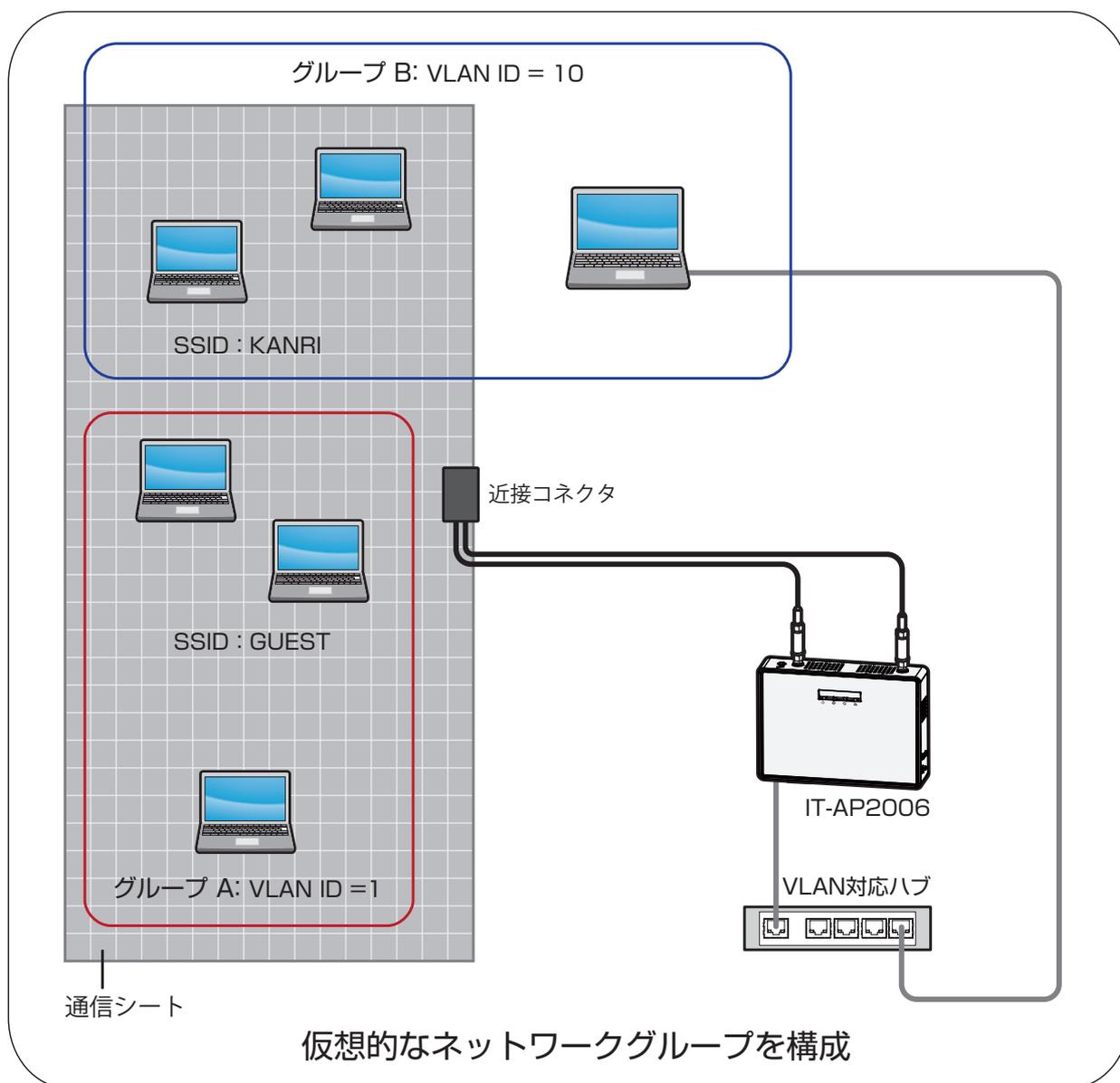
5. Power LED が橙点滅から緑点灯に変わったら、初期化は完了です。
6. Web ブラウザを終了します。

6-6. VLAN 機能

本製品の無線 LAN の SSID に VLAN ID を設定できます。

本製品とタグ VLAN 対応のスイッチングハブ（以降、VLAN 対応ハブ）を併用することで、仮想的にネットワークグループを構成できます。

本製品は Multi SSID に対応していますので、最大で 4 つの仮想的なネットワークグループが構成できます。



注意

- ご利用になる環境や Web ブラウザによって多少表示が異なる場合があります。
- IEEE802.1Q 準拠のタグ VLAN に対応します。
- DynamicVLAN は含みません。

VLAN 機能を設定する

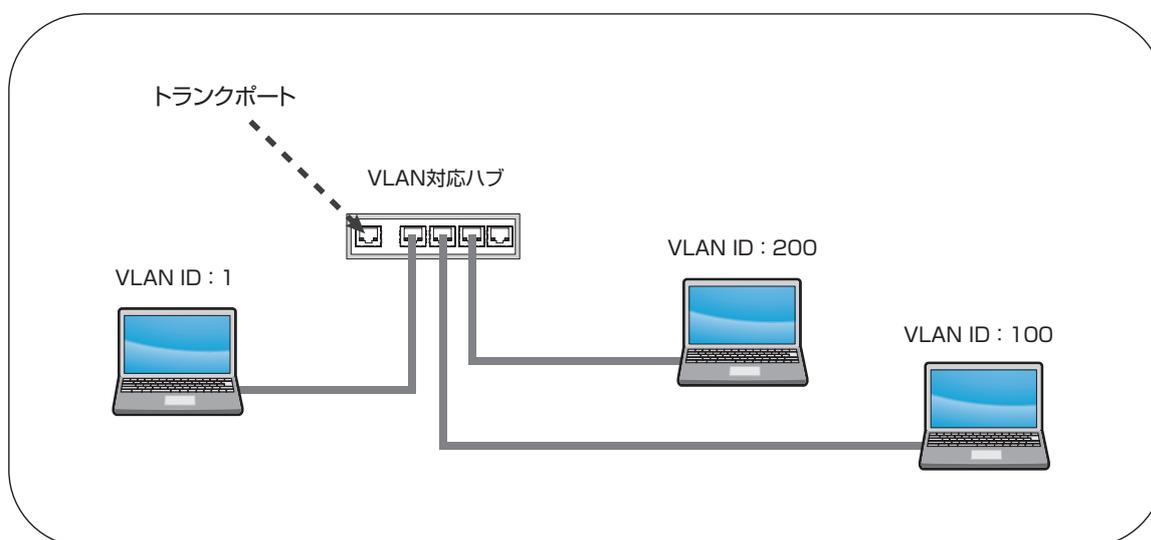
ここでは、既にタグ VLAN 対応ハブを使用したネットワークグループが構成されている環境に本製品を接続する場合の設定手順を説明します。

【ネットワークの VLAN 情報を確認する】

既に構成されているネットワークの以下の情報を確認します。

VLAN 対応ハブの詳細については、VLAN 対応ハブの説明書を確認してください。

- ・ 本製品を接続する VLAN 対応ハブのトランクポートの位置
- ・ ネイティブ VLAN の VLAN ID
- ・ VLAN 対応ハブに接続されている機器の VLAN ID



注意

- VLAN 対応ハブに使用可能なトランクポートが無い場合は、トランクポートを作成してください。
- VLAN 対応ハブの詳細については、VLAN 対応ハブの取扱説明書を参照してください。

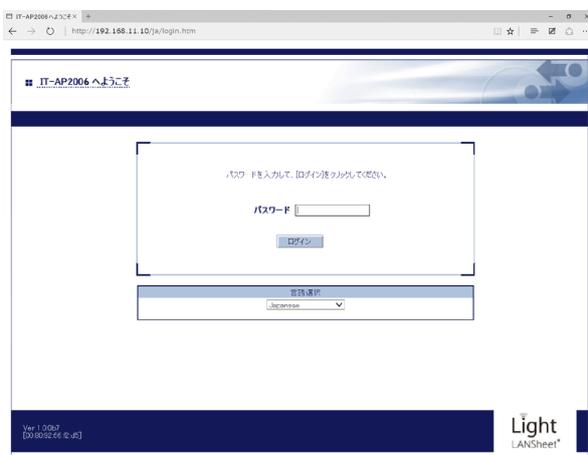


参考

- ネイティブ VLAN は、タグなし VLAN とも呼ばれます。

【本製品の VLAN 機能を設定する】

1. Web ブラウザを使って、本製品にログインします。

**注意**

- タグ VLAN 対応のスイッチングハブに接続して設定する場合は、本製品が設定で使用する PC と通信できるポートに接続されていることを確認してください。

2. 本製品の Web ページが表示されます。

本製品の Web ページの左側にあるメニューから、「詳細設定」 - 「VLAN」をクリックします。

3. 設定画面が表示されます。「VLAN」を「ENABLE」に設定すると各 VLAN ID が設定可能になります。事前に確認した既に構成されているネットワーク情報を参考にして、構築する仮想ネットワークの構成に合わせた VLAN ID を設定します。「設定更新」をクリックします。

設定例)

	VLAN ID	SSID
無線 LAN1	1	KANRI
無線 LAN2	100	GUEST
無線 LAN3	200	EIGYOU



注意

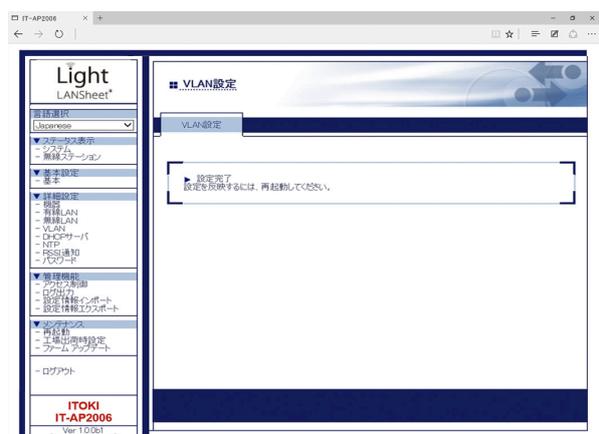
- VLAN 機能が有効な環境で、無線 LAN の「ネットワーク認証」に下記の値を設定する場合は、「管理用 VLAN ID」に RADIUS サーバが設置されたネットワークグループと同じ VLAN ID を設定してください。
 - ネットワーク認証に設定する値が「802.1X」「WPA-Enterprise」「WPA2-Enterprise」「WPA/WPA2-Enterprise」の場合



参考

- 設定項目については、「A. 付録」-「A-1. 設定項目一覧」を参照してください。
- 「ネイティブ VLAN ID」には、事前に確認した VLAN 対応ハブのネイティブ VLAN ID を設定します。
- 無線 LAN1 ~ 4 の VLAN ID は、事前に確認したハブに接続されている機器の VLAN ID を設定します。
- VLAN 機能が有効になった後は、管理用 VLAN ID と同じ VLAN ID が設定されたネットワークグループからのみ本製品を設定できます。
- VLAN 機能が「ENABLE」のときは、無線 LAN 基本設定ページでも VLAN ID が設定できます。
- VLAN 機能が「ENABLE」のときでも、「ネイティブ VLAN ID」と「管理用 VLAN ID」の VLAN ID を同じ値に設定すれば、VLAN に非対応のハブからでも本製品にアクセスできます。「ネイティブ VLAN ID」と「管理用 VLAN ID」には同じ VLAN ID の設定を推奨します。

4. 設定更新が完了したら、本製品を再起動します。

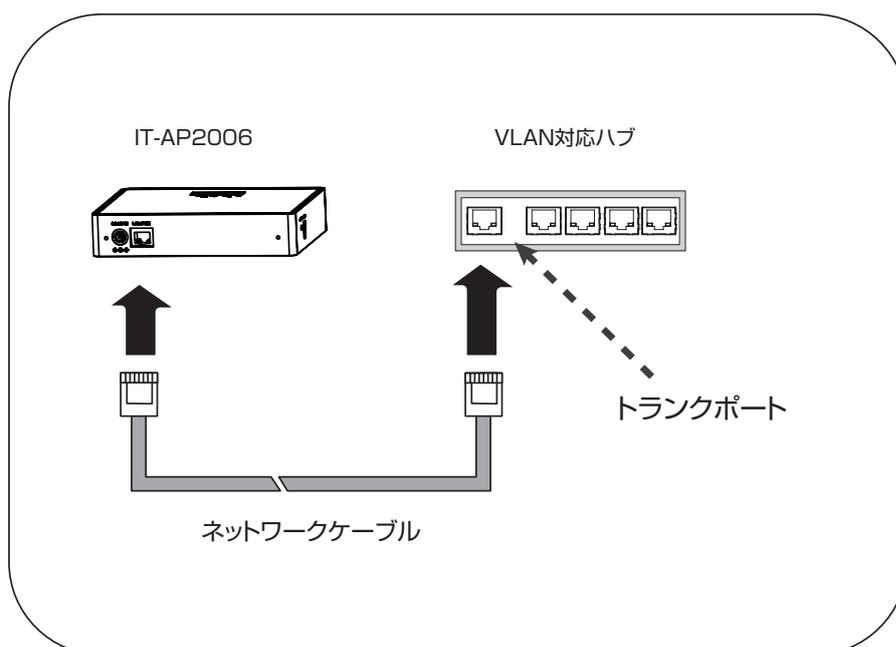


参考

- 本製品の再起動方法については、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「本製品の再起動」を参照してください。
- 引き続き、他のページの設定をする場合は、ここで再起動する必要はありません。すべての設定が完了した後で再起動してください。
- VLAN 機能は、再起動後に開始されます。

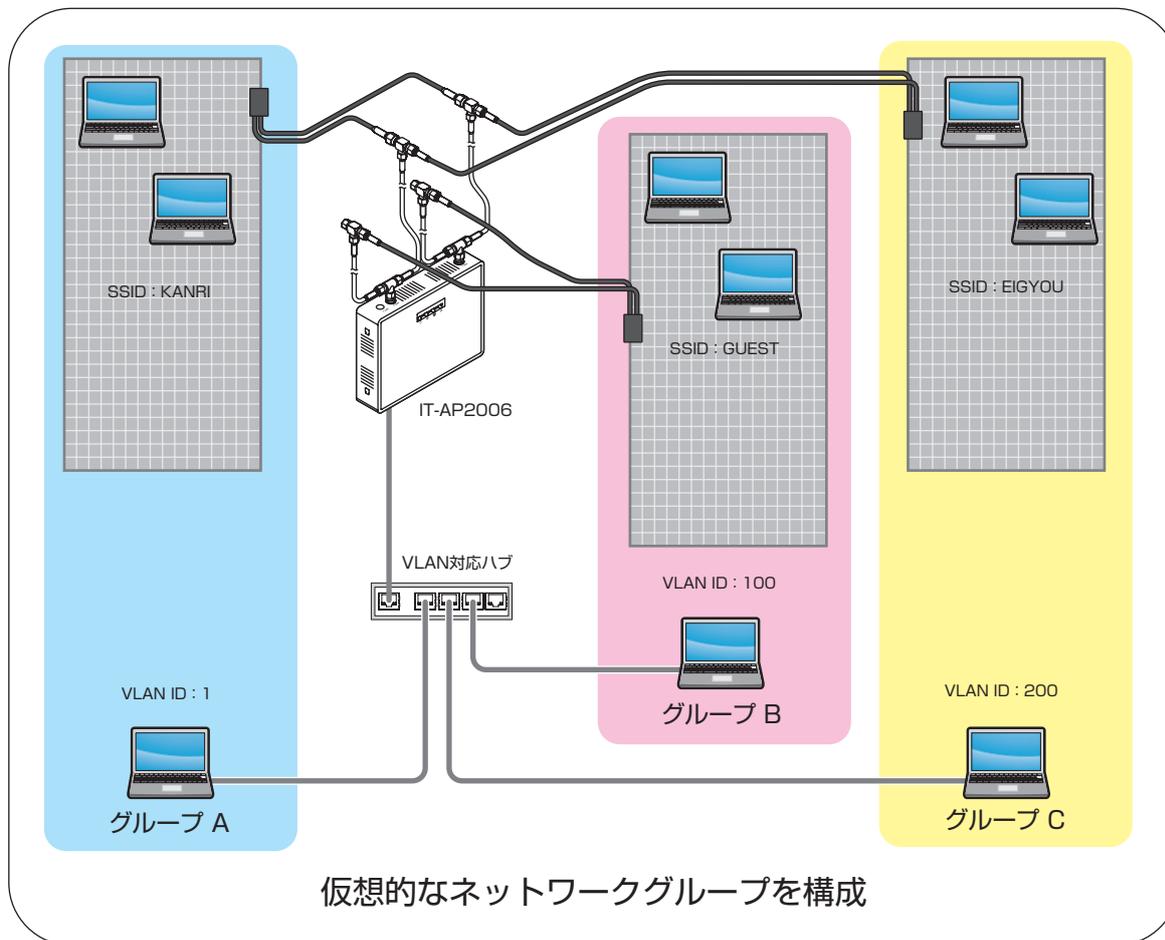
【本製品を VLAN 対応ハブのトランクポートに接続する】

本製品の有線ポートと事前に確認した VLAN 対応ハブの「トランクポート」を接続します。



以上で VLAN 機能の設定は完了です。

以降は VLAN ID の設定に従って、仮想的なネットワークグループで動作します。



注意

- VLAN 機能が有効になった後は、管理用 VLAN と同じ VLAN ID が設定されたネットワークグループからのみ本製品を設定できます。
管理用 VLAN の VLAN ID が不明などで設定できないときは、設定を初期化して再設定する必要があります。設定の初期化方法は、本書の「6-5. メンテナンス機能」の「製品本体で初期化する」を参照してください。
- VLAN 機能が有効な環境で無線 LAN で接続している PC から設定を行う場合は、無線 LAN の SSID に設定されている VLAN ID を管理用 VLAN の ID と同じ値に設定します。
また、初期設定では本製品の「アクセス制御」機能により無線 LAN からの設定は制限されていますので、ご利用の環境に合わせて設定を変更してください。
- 設定項目については、「A. 付録」-「A-1. 設定項目一覧」を参照してください。

A. 付録

A-1. 設定項目一覧

本製品の設定項目について説明します。設定項目によっては詳細設定でのみ設定可能な設定があります。詳しくは各設定項目の「基本設定」「詳細設定」の欄で確認してください。

機器設定 - 機器設定			
ホスト名		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	ホスト名を設定します。他の機器と重複しない名前を設定してください。		
設定可能範囲	15 文字以下の文字列		
初期値	LSxxxxxx (xxxxxx は Ethernet アドレスの下 6 桁)		

機器設定 - TCP/IP 設定			
DHCP		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	DHCP プロトコルの有効 (ENABLE) / 無効 (DISABLE) を設定します。DHCP サーバから IP アドレスを自動的に取得するには、同一ネットワーク内で DHCP サーバが稼働している必要があります。		
設定可能範囲	ENABLE/DISABLE		
初期値	DISABLE		

IP アドレス		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	IP アドレスの設定をします。DHCP が有効の場合は、DHCP で取得した IP アドレスが優先して割り当てられます。		
設定可能範囲	0.0.0.0 ~ 255.255.255.255		
初期値	192.168.0.10		

サブネットマスク		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	サブネットマスクを設定します。DHCP が有効の場合は、DHCP で取得したサブネットマスクが優先して割り当てられます。		
設定可能範囲	0.0.0.0 ~ 255.255.255.255		
初期値	255.255.255.0		
備考	0.0.0.0 を設定した場合は、IP アドレスのアドレスクラスに対応したサブネットマスクが自動的に割り当てられます。		

デフォルトゲートウェイ		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	ゲートウェイアドレスを設定します。「0.0.0.0」(工場出荷時) に設定すると無効になります。DHCP が有効の場合は、DHCP で取得したデフォルトゲートウェイが優先して割り当てられます。		
設定可能範囲	0.0.0.0 ~ 255.255.255.255		
初期値	0.0.0.0		

機器設定 - DNS 設定

DNS サーバ (プライマリ)		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	DNS プライマリサーバのアドレスを設定します。DHCP が有効の場合、DHCP で取得した DNS サーバが優先されます。		
設定可能範囲	0.0.0.0 ~ 255.255.255.255		
初期値	0.0.0.0		
DNS サーバ (セカンダリ)		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	DNS セカンダリサーバのアドレスを設定します。DHCP が有効の場合、DHCP で取得した DNS サーバが優先されます。		
設定可能範囲	0.0.0.0 ~ 255.255.255.255		
初期値	0.0.0.0		

有線 LAN 設定

LAN インタフェース		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	物理ネットワークの種別を設定します。		
設定可能範囲	AUTO/10Base-T-Half/10Base-T-Full/100Base-TX-Half/100Base-TX-Full/1000Base-T-Full		
初期値	AUTO		
備考	通常は「AUTO」のまま使用してください。電源投入時に本製品を接続している HUB の LINK ランプが点灯しない場合は、この設定を接続している HUB のネットワーク種別に合わせてください。		
ジャンボフレーム		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	ジャンボフレームの有効 (ON) / 無効 (OFF) を設定します。有効にした場合、1 フレーム最大 9696 バイト (FCS 4 バイトを除く) で TCP/IP 通信を行うことができます。		
設定可能範囲	ON/OFF		
初期値	OFF		
備考	10BASET/100BASE-TX 環境で使用する際はこの設定を無効 (OFF) にしてください。		

有線 LAN 設定 - MAC アドレスフィルタ設定			
フィルタタイプ		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	有線 LAN の MAC アドレスフィルタのセキュリティタイプを設定します。		
設定可能範囲	DISABLE/DENY/ALLOW		
初期値	DISABLE		
MAC アドレス		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	有線 LAN の MAC アドレスフィルタを設定します。 MAC アドレスフィルタを登録することで、有線 LAN 側から本製品へアクセスする機器を制限することが可能です。		
設定可能範囲	00:00:00:00:00:01 ~ FF:FF:FF:FF:FF:FE		
初期値	00:00:00:00:00:00		
備考	フィルタタイプの設定が「DISABLE」： 全ての機器と通信可能です。 フィルタタイプの設定が「DENY」： MAC アドレスフィルタリストに登録されている機器との通信を拒否します。 フィルタタイプの設定が「ALLOW」： MAC アドレスフィルタリストに登録されている機器のみ通信を許可します。		

無線 LAN 設定 - 無線 LAN 共通設定

無線モード		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	本製品が使用する IEEE 802.11 無線規格種類を設定します。		
設定可能範囲	802.11b, 802.11b/g, 802.11n/b/g, 802.11a, 802.11n/a		
初期値	802.11n/b/g		
備考	802.11b/g : IEEE 802.11b および IEEE 802.11g で通信します。 802.11a : IEEE 802.11a で通信します。 802.11n/b/g : IEEE 802.11n, IEEE 802.11b および IEEE 802.11g で通信します。 802.11n/a : IEEE 802.11n および IEEE 802.11a で通信します。		
チャンネル帯域幅		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	周波数帯域幅を設定します。無線モードで「802.11n/b/g」または「802.11n/a」を使用するときに設定します。 無線 LAN では、複数の無線機器が同時に通信できるよう周波数帯域を分割して利用します。分割した周波数帯域をチャンネルと呼び、無線 LAN で使用されるチャンネルの周波数帯域幅は、1チャンネルで「20MHz」です。「40MHz」にすると、一度に通信できるデータ量が増え、高速通信が可能となります。		
設定可能範囲	20MHz/40MHz		
初期値	20MHz		
備考	40MHz (高速) : 隣り合う2つの20MHzの帯域をつなげて標準の2倍の周波数帯域幅として、高速通信を行います。 20MHz (標準) : 標準の周波数帯域幅を使用して通信します。 40MHz (高速) では一度に多くの帯域を消費します。40MHz の設定で通信が不安定になる場合は、20MHz (標準) で使用することを推奨します。		
通信チャンネル		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	無線 LAN で使用するチャンネルを設定します。チャンネルとは、分割した周波数帯域です。無線 LAN では、複数の無線機器が同時に通信できるようにするために、周波数帯域を分割して利用します。		
設定可能範囲	1 ~ 13/ 36/40/44/48/52/56/60/64/ 100/104/108/112/116/120/ 124/128/132/136/140/AUTO		
初期値	11		
備考	他の無線製品の電波と混信して通信が不安定になる場合は、使用するチャンネルを変更してください。使用できるチャンネルは国により異なります。 W53、W56 のチャンネルは起動後およびレーダー波を検知した場合、一定時間 (※) 通信できません。 拡張チャンネルの設定は、通信チャンネルに依存します。 (※) 国により時間が異なります。日本の場合は 1 分間です。		

無線 LAN 設定 - 無線 LAN 基本設定			
インターフェース		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	無線インターフェース 1 ~ 4 の有効 / 無効を設定します。		
設定可能範囲	ENABLE/DISABLE		
初期値	無線 LAN1=ENABLE、無線 LAN2 ~ 4=DISABLE		
SSID		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	本製品を接続する無線 LAN の SSID を設定します。SSID は、無線 LAN を使用して通信するグループを識別するための ID です。無線 LAN 上で通信する機器は同じ SSID を設定します。		
設定可能範囲	英数文字列 (1 ~ 32 文字)		
初期値	無線 LAN1 : lansheet 無線 LAN2 ~ 4 : lansheet2 ~ 4		
ステルスモード		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	ステルスモード機能の有効 (ENABLE) / 無効 (DISABLE) を設定します。		
設定可能範囲	ENABLE/DISABLE		
初期値	DISABLE		

無線 LAN 設定 - 無線 LAN 基本設定

ネットワーク認証		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	無線機器と接続する際に使用する認証方式を設定します。 強固なセキュリティを確保するために、WPA/WPA2 を使用することをお勧めします。 IEEE 802.11n では、暗号化方式は AES のみ使用できます。		
設定可能範囲	Open, Shared, WPA-PSK, WPA2-PSK, WPA/WPA2-PSK, 802.1X, WPA-Enterprise, WPA2-Enterprise, WPA/WPA2-Enterprise		
初期値	無線 LAN1 : WPA2-PSK 無線 LAN2 ~ 4 : Open		
備考	<p>Open (オープンシステム) :</p> <p>認証を行わずに、すべてのアクセスを許可します。通信の暗号化は WEP を使用します。</p> <p>Shared (共有キー) :</p> <p>暗号化に使用する WEP キーを認証キーとして使用して、同じキーを持つ機器にのみアクセスを許可します。通信の暗号化は WEP を使用します。</p> <p>WPA-PSK :</p> <p>PSK を使用してネットワーク認証を行います。通信の暗号化は TKIP/AES/AUTO から選択します。暗号キーは共有キーを元に無線機器と通信して作成されます。WEP キーの設定内容は使用しません。</p> <p>WPA2-PSK :</p> <p>PSK を使用してネットワーク認証を行います。通信の暗号化は AES/AUTO になります。暗号キーは共有キーを元に無線機器と通信して作成されます。WEP キーの設定内容は使用しません。</p> <p>WPA/WPA2-PSK :</p> <p>WPA-PSK と WPA2-PSK の両方の認証を使用することができます。</p> <p>802.1X :</p> <p>IEEE 802.1X によるユーザ認証と、WEP による暗号化通信を行います。</p> <p>WPA-Enterprise :</p> <p>IEEE 802.1X によるユーザ認証と、TKIP/AES/AUTO による暗号化通信を行います。</p> <p>WPA2-Enterprise :</p> <p>IEEE 802.1X によるユーザ認証と、AES/AUTO による暗号化通信を行います。</p> <p>WPA/WPA2-Enterprise :</p> <p>IEEE 802.1X によるユーザ認証と、AES/AUTO による暗号化通信を行います。</p> <p>IEEE 802.11n では、Shared 認証、IEEE 802.1X 認証、および、WEP 暗号通信、TKIP 暗号通信は使用できません。</p>		

無線 LAN 設定 - WEP 設定			
WEP		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	WEP 暗号化機能の有効/無効を設定します。 WEP 暗号化を使用すると、「WEP キー (1 ~ 4)」および「キーインデックス」に設定された情報により、無線 LAN で通信するデータが暗号化されます。		
設定可能範囲	ON/OFF		
初期値	OFF		
備考	暗号化を使用しない場合、無線 LAN で通信するデータは暗号化されずに、そのまま送信されます。セキュリティを向上させるため、暗号化設定を行って無線ネットワークを構築することをお勧めします。		
キーインデックス		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	使用する WEP キーの番号 (1-4) を設定します。キーインデックスは通信相手の機器と同じに設定しておく必要があります。		
設定可能範囲	1 ~ 4		
初期値	1		
WEP キー 1 ~ 4		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	WEP 暗号化に使用する暗号化キー (WEP キー) を設定します。この WEP キーは最大 4 つまで設定することができ、通信する相手機器と同じ値を設定する必要があります。 WEP キーの入力方式は「16 進数表記」と「英数字表記」があります。		
設定可能範囲	5 桁または 13 桁の英数字列 10 桁または 26 桁 16 進数数字		
初期値	(なし)		
備考	一般的には、半角英数字文字列を「英数字表記」で設定します。 キーサイズが 64bit の場合は 5 文字の値、128bit の場合は 13 文字の値を入力します。 「16 進数表記」の場合は、数字の「0 ~ 9」と英字の「A ~ F」を組み合わせた値を設定します。 キーサイズ (キーの長さ) が 64bit の場合は 10 桁の値、128bit の場合は 26 桁の値を入力します。		

無線 LAN 設定 - WPA/WPA2 設定			
暗号化方式		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	ネットワーク認証が「WPA-PSK」「WPA2-PSK」「WPA/WPA2-PSK」「WPA-Enterprise」「WPA2-Enterprise」「WPA/WPA2-Enterprise」のときに使用する暗号化方式を選択します。		
設定可能範囲	TKIP/AES/AUTO		
初期値	AES		
備考	<p>ネットワーク認証が「WPA2-PSK」「WPA/WPA2-PSK」「WPA2-Enterprise」「WPA/WPA2-Enterprise」の場合は「TKIP」「AUTO」に設定することはできません。</p> <p>※ 使用する暗号化方式により、ステーションの最大接続台数が決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「AES」のみを使用する場合：100 台 - 「TKIP」または「AUTO」を使用する場合：50 台 <p>※ Multi SSID 環境での接続台数は、各無線インタフェースでの接続台数の合計です。</p> <p>無線インタフェースが使用する暗号化方式により、最大接続台数が決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - すべての無線インタフェースが「AES」のみを使用する場合：100 台 - いずれかの無線インタフェースが「TKIP」または「AUTO」を使用する場合：50 台 		
共有キー		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	暗号化方式で TKIP/AES を使用する際に共有キー (Pre-Shared Key) を設定します。共有キーとは暗号化キーを生成するためのキーワードで、「ネットワークキー」や「パスワード」といった表現で設定する無線 LAN 機器もあります。		
設定可能範囲	英数文字列 (8 ~ 63 文字) 64 文字の 16 進数数字		
初期値	無線 LAN1 : xxxxxxxx 無線 LAN2 ~ 4 : xxxxxxxx_y (xxxxxxx は Ethernet アドレスを元に生成ルールによって作成された数列、y は無線インタフェース番号) ※本項目の初期値は、本製品裏面のラベルに記載されています。		
備考	一般的には、8 ~ 63 文字の半角英数字文字列を「英数字表記」で設定します。「16 進数表記」の場合は、数字の「0 ~ 9」と英字の「A ~ F」を組み合わせた 64 文字の 16 進数値を設定します。 この共有キーは通信する相手機器と同じ値を設定する必要があります。		
グループ鍵更新間隔		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	暗号鍵の更新間隔を分単位で設定します。0 を設定すると無効になります。		
設定可能範囲	0 ~ 1440		
初期値	60		

無線 LAN 設定 - RADIUS サーバ設定			
サーバ IP アドレス		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	RADIUS サーバの IP アドレスを設定します。 本設定はネットワーク認証が「802.1X」「WPA-Enterprise」「WPA2-Enterprise」「WPA/WPA2-Enterprise」の場合に設定する必要があります。		
設定可能範囲	0.0.0.0 ~ 255.255.255.255		
初期値	0.0.0.0		
ポート番号		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	RADIUS サーバとの通信で使用するポート番号を設定します。		
設定可能範囲	0 ~ 65535		
初期値	1812		
シークレットキー		基本設定	*
		詳細設定	*
内容	RADIUS サーバとの通信で使用するシークレットキーを設定します。		
設定可能範囲	英数文字列 (0 文字 ~ 32 文字)		
初期値	(なし)		

無線 LAN 設定 - セキュリティ設定

プライバシーセパレータ		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	本製品に接続された無線子機間で、通信の禁止・許可を設定することが可能です。 プライバシーセパレータが有効になっている無線インタフェースは、他の無線インタフェースへ無線フレームをフォワードせず、有線の LAN インタフェースにのみフォワードします。		
設定可能範囲	OFF/ON		
初期値	OFF		

無線 LAN 設定 - MAC アドレスフィルタ設定

フィルタタイプ		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	無線 LAN の MAC アドレスフィルタのセキュリティタイプを設定します。		
設定可能範囲	DISABLE/DENY/ALLOW		
初期値	DISABLE		

MAC アドレス		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	無線 LAN の MAC アドレスフィルタを設定します。 MAC アドレスフィルタを登録することで、無線 LAN 側から本製品へアクセスする機器を制限することが可能です。		
設定可能範囲	00:00:00:00:00:01 ~ FF:FF:FF:FF:FF:FE		
初期値	00:00:00:00:00:00		
備考	フィルタタイプの設定が「DISABLE」： 全ての無線ステーションと通信可能です。 フィルタタイプの設定が「DENY」： MAC アドレスフィルタリストに登録されている無線ステーションの接続を拒否します。 フィルタタイプの設定が「ALLOW」： MAC アドレスフィルタリストに登録されている無線ステーションのみ通信を許可します。		

無線 LAN 設定 - 拡張設定			
ビーコン間隔 (ミリ秒)		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	ビーコンの送信間隔をミリ秒単位で設定します。		
設定可能範囲	20 ~ 1000		
初期値	100		
DTIM		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	無線 LAN の DTIM 間隔を設定します。		
設定可能範囲	1 ~ 255		
初期値	1		
2.4GHz 送信強度低減		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	無線 LAN の 2.4GHz の電波送信強度を設定します。 送信強度を抑えると、本製品から電波の届く距離が短くなり、本製品を検索できる範囲を狭めることができます。本製品を検索できる範囲を狭めることで、他の無線ネットワークへの干渉を軽減できます。		
設定可能範囲	0 ~ 20		
初期値	10		
5GHz 送信強度低減		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	無線 LAN の 2.4GHz の電波送信強度を設定します。 送信強度を抑えると、本製品から電波の届く距離が短くなり、本製品を検索できる範囲を狭めることができます。本製品を検索できる範囲を狭めることで、他の無線ネットワークへの干渉を軽減できます。		
設定可能範囲	0 ~ 20		
初期値	9		
RTS 閾値		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	RTS 送信の閾値を設定します。		
設定可能範囲	1 ~ 2346		
初期値	2346		
Short Preamble		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	Short Preamble の有効 (ON) / 無効 (OFF) を設定します。		
設定可能範囲	ON/OFF		
初期値	ON		
備考	この設定は無線モードが「802.11b」または「802.11b/g」のときのみ有効です。		
A-MPDU		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	A-MPDU の有効 (ON) / 無効 (OFF) を設定します。 有効 (ON) にするとスループットが向上する場合があります。		
設定可能範囲	ON/OFF		
初期値	ON		
備考	この設定は無線モードが「802.11n/b/g」または「802.11n/a」のときのみ有効です。		

無線 LAN 設定 - 拡張設定

A-MPDU サイズ		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	A-MPDU のフレームサイズを設定します。		
設定可能範囲	4096/8192/16384/32768/65535		
初期値	65535		
備考	この設定は下記条件下でのみ有効です。 ・ A-MPDU の有効 (ON) ・ 無線モードが「802.11n/b/g」または「802.11n/a」		
A-MSDU		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	A-MSDU の有効 (ON) / 無効 (OFF) を設定します。 有効 (ON) にするとスループットが向上する場合があります。		
設定可能範囲	ON/OFF		
初期値	OFF		
備考	この設定は無線モードが「802.11n/b/g」または「802.11n/a」のときのみ有効です。		
Short Guard Interval		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	Short Guard Interval の有効 (ON) / 無効 (OFF) を設定します。 有効 (ON) にするとスループットが向上する場合があります。		
設定可能範囲	ON/OFF		
初期値	ON		
備考	この設定は下記条件下でのみ有効です。 ・ 無線モードが「802.11n/b/g」または「802.11n/a」 ・ チャンネル帯域幅が「40MHz」		

無線 LAN 設定 - ミニマムレート設定

2.4GHz データフレーム		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	2.4GHz のデータフレームの最低通信レートを設定します。		
設定可能範囲	1 ~ 300 (半角英数字)		
初期値	36		
備考	通信シートと無線 LAN 端末の通信範囲を調整することができます。		
2.4GHz マネージメントフレーム		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	2.4GHz のマネージメントフレームの最低通信レートを設定します。		
設定可能範囲	1 ~ 300 (半角英数字)		
初期値	24		
備考	本製品に設定した「SSID」が含まれるビーコンシグナルの飛距離を小さくする場合、マネージメントフレームの値を大きく設定します。データフレームの値より大きくならないように設定します。		
5GHz データフレーム		本設定	-
		詳細設定	*
内容	5GHz のデータフレームの最低通信レートを設定します。		
設定可能範囲	1 ~ 300 (半角英数字)		
初期値	36		
備考	通信シートと無線 LAN 端末の通信範囲を調整することができます。		
5GHz マネージメントフレーム		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	5GHz のマネージメントフレームの最低通信レートを設定します。		
設定可能範囲	1 ~ 300 (半角英数字)		
初期値	24		
備考	本製品に設定した「SSID」が含まれるビーコンシグナルの飛距離を小さくする場合、マネージメントフレームの値を大きく設定します。データフレームの値より大きくならないように設定します。		

無線 LAN 設定 - ストリーム数選択設定

ストリーム数		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	ストリーム数 (Tx X Rx) を設定します。		
設定可能範囲	1 または 2		
初期値	2		
備考	別売品「近接コネクタ」によって設定値の変更が必要です。 近接コネクタ 2X2 (標準) 設定値：2 近接コネクタ 1X1 設定値：1		

無線 LAN 設定 - QoS(WMM) 設定 (AP 用)

BE		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	WMM-EDCA の BE (Best Effort) の QoS 設定を変更することが可能です。		
設定可能範囲	ECWmin : 1 ~ 15 ECWmax : 1 ~ 15 AIFSN : 1 ~ 15 TxOPLimit : 0 ~ 8192		
初期値	ECWmin : 4 ECWmax : 6 AIFSN : 3 TxOPLimit : 0		
備考	TxOPLimit は、16 の倍数で設定します。		
BK		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	WMM-EDCA の (BK: Back Ground) の QoS 設定を変更することが可能です。		
設定可能範囲	ECWmin : 1 ~ 15 ECWmax : 1 ~ 15 AIFSN : 1 ~ 15 TxOPLimit : 0 ~ 8192		
初期値	ECWmin : 4 ECWmax : 10 AIFSN : 7 TxOPLimit : 0		
備考	TxOPLimit は、16 の倍数で設定します。		
VI		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	WMM-EDCA の (VI: Video) の QoS 設定を変更することが可能です。		
設定可能範囲	ECWmin : 1 ~ 15 ECWmax : 1 ~ 15 AIFSN : 1 ~ 15 TxOPLimit : 0 ~ 8192		
初期値	ECWmin : 3 ECWmax : 4 AIFSN : 1 TxOPLimit : 3008		
備考	TxOPLimit は、16 の倍数で設定します。		

無線 LAN 設定 - QoS(WMM) 設定 (AP 用)			
VO		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	WMM-EDCA の (VO: Voice) の QoS 設定を変更することが可能です。		
設定可能範囲	ECWmin : 1 ~ 15 ECWmax : 1 ~ 15 AIFSN : 1 ~ 15 TxOPLimit : 0 ~ 8192		
初期値	ECWmin : 2 ECWmax : 3 AIFSN : 1 TxOPLimit : 1504		
備考	TxOPLimit は、16 の倍数で設定します。		

無線 LAN 設定 - QoS(WMM) 設定 (ステーション用)			
BE		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	WMM-EDCA の (BE: Best Effort) の QoS 設定を変更することが可能です。		
設定可能範囲	ECWmin : 1 ~ 15 ECWmax : 1 ~ 15 AIFSN : 1 ~ 15 TxOPLimit : 0 ~ 8192 ACM : ON/OFF		
初期値	ECWmin : 4 ECWmax : 10 AIFSN : 3 TxOPLimit : 0 ACM : OFF		
備考	TxOPLimit は、16 の倍数で設定します。		

無線 LAN 設定 - QoS(WMM) 設定 (ステーション用)

BK		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	WMM-EDCA の (BK: Back Ground) の QoS 設定を変更することが可能です。		
設定可能範囲	ECWmin : 1 ~ 15 ECWmax : 1 ~ 15 AIFSN : 1 ~ 15 TxOPLimit : 0 ~ 8192 ACM : ON/OFF		
初期値	ECWmin : 4 ECWmax : 10 AIFSN : 7 TxOPLimit : 0 ACM : OFF		
備考	TxOPLimit は、16 の倍数で設定します。		
VI		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	WMM-EDCA の (VI: Video) の QoS 設定を変更することが可能です。		
設定可能範囲	ECWmin : 1 ~ 15 ECWmax : 1 ~ 15 AIFSN : 1 ~ 15 TxOPLimit : 0 ~ 8192 ACM : ON/OFF		
初期値	ECWmin : 3 ECWmax : 4 AIFSN : 2 TxOPLimit : 3008 ACM : OFF		
備考	TxOPLimit は、16 の倍数で設定します。		
VO		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	WMM-EDCA の (VO: Voice) の QoS 設定を変更することが可能です。		
設定可能範囲	ECWmin : 1 ~ 15 ECWmax : 1 ~ 15 AIFSN : 1 ~ 15 TxOPLimit : 0 ~ 8192 ACM : ON/OFF		
初期値	ECWmin : 2 ECWmax : 3 AIFSN : 2 TxOPLimit : 1504 ACM : OFF		
備考	TxOPLimit は、16 の倍数で設定します。		

無線 LAN 設定 - 受信強度閾値設定

受信強度接続切断機能		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	受信強度接続切断設定の有効 (ENABLE) / 無効 (DISABLE) を設定します。		
設定可能範囲	ENABLE/DISABLE		
初期値	DESABLE		
接続受信強度閾値		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	接続する受信強度の閾値を設定します。		
設定可能範囲	1 ~ 94 (-1dBm ~ -94dBm)		
初期値	60 (-60dBm)		
切断受信強度閾値		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	切断する受信強度の閾値を設定します。		
設定可能範囲	1 ~ 94 (-1dBm ~ -94dBm)		
初期値	72 (-72dBm)		
再接続インターバルタイム		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	切断後、再接続する時間を設定します。単位は秒です。		
設定可能範囲	1 ~ 256		
初期値	5		



参考

- ここでいう受信強度とは、「製品に接続された無線 LAN 端末」から電波を本製品にで設定したものです。

VLAN 設定 - IEEE 802.1Q VLAN 設定

VLAN		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	VLAN の有効 (ENABLE) / 無効 (DISABLE) を設定します。 有効に設定した場合は、本製品の有線 LAN ポートと VLAN 対応ハブのトランクポートを接続します。		
設定可能範囲	ENABLE/DISABLE		
初期値	DISABLE		
備考	この設定が有効のときは、有線 LAN ポートをトランクポートとして、有線 LAN ネットワークにはタグ付きフレームの packets が送信されます。		
ネイティブ VLAN ID		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	ネイティブ VLAN の VLAN ID を設定します。 本製品の有線 LAN ポートと接続する VLAN 対応ハブのトランクポートと同じ VLAN ID を設定します。		
設定可能範囲	1 ~ 4094		
初期値	1		
備考	この設定は VLAN が「ENABLE」のときのみ有効です。 受信したタグ無しフレームの packets をネイティブ VLAN として処理します。 ネイティブ VLAN と同じ VLAN ID の packets には、タグを付けずに送信します。		
無線 LAN 1 ~ 4 VLAN ID		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	本製品の Multi SSID それぞれに VLAN ID を設定します。		
設定可能範囲	1 ~ 4094		
初期値	1		
備考	この設定は VLAN が「ENABLE」のときのみ有効です。 各 VLAN ID に対応する SSID が設定項目の右側に表示されます。		
管理用 VLAN ID		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	管理用 VLAN の VLAN ID を設定します。 VLAN が有効のとき、本製品にアクセスするための VLAN ID です。無線 LAN から本製品にアクセスする場合は、無線 LAN 側の VLAN ID と同じ VLAN ID を設定します。 VLAN 機能が有効な環境で、無線 LAN の「ネットワーク認証」に下記の値を設定する場合は、RADIUS サーバが設置されたネットワークグループと同じ VLAN ID を設定してください。 - ネットワーク認証に設定する値が「802.1X」「WPA-Enterprise」「WPA2-Enterprise」「WPA/WPA2-Enterprise」の場合		
設定可能範囲	1 ~ 4094		
初期値	1		
備考	この設定は VLAN が「ENABLE」のときのみ有効です。 Web ページやデバイスサーバ機能などの IP プロトコルおよび FLDP プロトコルでのアクセスは、管理用 VLAN と同じ VLAN ID のネットワークグループからのみに制限されます。 無線 LAN から本製品へのアクセスは、本製品の「アクセス制御」でも制限されています。無線 LAN から本製品にアクセスする場合は、該当プロトコルの無線 LAN を有効 (ENABLE) に設定してください。		

DHCP サーバ設定			
DHCP サーバ機能		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	DHCP サーバの有効 (ENABLE) / 無効 (DISABLE) を設定します。 本製品を DHCP サーバとして動作させて、パソコンに IP アドレスを自動で割り振る場合は「ENABLE」に設定します。同じネットワーク内に既に DHCP サーバがある場合は「DISABLE」に設定してください。		
設定可能範囲	ENABLE/DISABLE		
初期値	DISABLE		
開始 IP アドレス		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	DHCP サーバ機能を有効にした場合の割り当て開始 IP アドレスを設定します。 設定値は、ピリオド (ドット) で区切られた 4 つの 10 進数で「x x x . x x x . x x x . x x x」の形式で設定します。		
設定可能範囲	0.0.0.0 ~ 255.255.255.255		
初期値	0.0.0.0		
終了 IP アドレス		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	DHCP サーバ機能を有効にした場合の割り当て終了 IP アドレスを設定します。 設定値は、ピリオド (ドット) で区切られた 4 つの 10 進数で「x x x . x x x . x x x . x x x」の形式で設定します。		
設定可能範囲	0.0.0.0 ~ 255.255.255.255		
初期値	0.0.0.0		
サブネットマスク		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	割り当て IP のためのサブネットマスクを設定します。 設定値は、ピリオド (ドット) で区切られた 4 つの 10 進数で「x x x . x x x . x x x . x x x」の形式で設定します。		
設定可能範囲	0.0.0.0 ~ 255.255.255.255		
初期値	0.0.0.0		
備考	「0.0.0.0」を設定するとこの項目は無効になり、割り当て開始 IP アドレスに応じたサブネットマスクが自動的に使用されます。		
デフォルトゲートウェイ		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	ゲートウェイアドレスを設定します。 設定値は、ピリオド (ドット) で区切られた 4 つの 10 進数で「x x x . x x x . x x x . x x x」の形式で設定します。		
設定可能範囲	0.0.0.0 ~ 255.255.255.255		
初期値	0.0.0.0		
備考	「0.0.0.0」に設定すると無効になり、DHCP でのデフォルトゲートウェイアドレスの割り当てがされません。		

DHCP サーバ設定

DNS サーバアドレス		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	名前解決 DNS サーバのアドレスを設定します。DNS サーバの IP アドレスを明示的に決定したいときに設定します。但し、DHCP サーバによる名前解決が行われる場合は無効になります。設定値は、ピリオド（ドット）で区切られた4つの10進数で「x x x . x x x . x x x . x x x」の形式で設定します。		
設定可能範囲	0.0.0.0 ~ 255.255.255.255		
初期値	0.0.0.0		
リース期間		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	リースタイムを設定します。 設定が0日0時間0分の場合、リース期間は10日間となります。		
設定可能範囲	0日0時間0分～44日23時間59分		
初期値	0日0時間0分		

NTP 設定

NTP		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	NTP プロトコルの有効 (ENABLE) / 無効 (DISABLE) を設定します。		
設定可能範囲	ENABLE/DISABLE		
初期値	DISABLE		
NTP サーバ		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	NTP サーバのドメイン名か IP アドレスを設定します。		
設定可能範囲	ドメイン名の場合 英数文字列 (0 ~ 128 文字) IP アドレスの場合 0.0.0.0 ~ 255.255.255.255		
初期値	(なし)		
ローカルタイムゾーン		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	ローカルタイムゾーンの設定を行います。		
設定可能範囲	-12:00 ~ +12:00		
初期値	+9:00		

RSSI 通知の設定

通知サーバ IP アドレス	基本設定	-
	詳細設定	*

内容	設定した値以上の RSSI の子機情報を通知サーバに通知することが可能です。本機能は通知サーバの IP アドレスを設定することで有効となります。
設定可能範囲	0.0.0.0 ~ 255.255.255.255
初期値	0.0.0.0
備考	本機能が有効な場合、Promiscuous モードで動作するためスループットが低下します。

通知ポート	基本設定	-
	詳細設定	*

内容	本機能で、使われる通信のポート番号です。
設定可能範囲	1 ~ 65535
初期値	25615

通知 RSSI 閾値	基本設定	-
	詳細設定	*

内容	通知サーバへ通知する下限 RSSI 値
設定可能範囲	0 ~ 255
初期値	0

タイムアウト	基本設定	-
	詳細設定	*

内容	通知サーバへ通知するインターバル 時間 [msec]。子機の RSSI 監視も 本設定毎に行われます。
設定可能範囲	500 ~ 3600000
初期値	500

パスワードの設定

パスワード	基本設定	-
	詳細設定	*

内容	本製品の管理パスワードを ASCII 文字列 (8 文字以内) で設定します。 このパスワードは Web ブラウザで設定を行う際の認証パスワードとして使用します。
設定可能範囲	英数文字列 (0 ~ 8 文字)
初期値	(なし)

アクセス制御			
SSH		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	有線 / 無線 LAN からの SSH を使用したアクセスを制御します。 有効 (ENABLE) が設定されている場合は、本製品へのアクセスを許可します。 無効 (DISABLE) が設定されている場合は、本製品へのアクセスを禁止します。		
設定可能範囲	ENABLE/DISABLE		
初期値	有線 LAN : ENABLE / 無線 LAN : DISABLE		
備考	この設定は、「ルートパスワード」が設定されているときのみ有効です。		
HTTP		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	有線 / 無線 LAN からの HTTP を使用したアクセスを制御します。 有効 (ENABLE) が設定されている場合は、本製品へのアクセスを許可します。 無効 (DISABLE) が設定されている場合は、本製品へのアクセスを禁止します。		
設定可能範囲	ENABLE/DISABLE		
初期値	有線 LAN : ENABLE / 無線 LAN : DISABLE		
FTP		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	有線 / 無線 LAN からの FTP を使用したアクセスを制御します。 有効 (ENABLE) が設定されている場合は、本製品へのアクセスを許可します。 無効 (DISABLE) が設定されている場合は、本製品へのアクセスを禁止します。		
設定可能範囲	ENABLE/DISABLE		
初期値	有線 LAN : ENABLE / 無線 LAN : DISABLE		
SNMP		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	有線 / 無線 LAN からの SNMP を使用したアクセスを制御します。 有効 (ENABLE) が設定されている場合は、本製品へのアクセスを許可します。 無効 (DISABLE) が設定されている場合は、本製品へのアクセスを禁止します。		
設定可能範囲	ENABLE/DISABLE		
初期値	有線 LAN : ENABLE / 無線 LAN : DISABLE		

ログ出力 - USB			
USB ログ出力		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	USB へのログ出力機能の有効 (ENABLE) / 無効 (DISABLE) を設定します。 有効に設定された場合は、USB ストレージをデバイスサーバ機能で使用できません。		
設定可能範囲	ENABLE/DISABLE		
初期値	DISABLE		
ファイルサイズ		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	ログ出力機能にて出力されるログのファイルサイズを、Mbyte 単位で指定します。		
設定可能範囲	1 ~ 100		
初期値	10		
世代数		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	指定した数のログを保持します。		
設定可能範囲	1 ~ 10		
初期値	2		
ファイル名		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	ログ出力機能にて出力されるログのファイル名を指定します。		
設定可能範囲	英数文字列 (1 ~ 64 文字)		
初期値	log		



注意

【ログのローテーションについて】

ログのファイルは、設定された「ファイルサイズ」と「世代数」をもとに、定期的に新しいファイルを作成し、古いファイルをリネームしながらローテーションを実行します。

設定例)

ファイルサイズ：10MByte

世代数：3

ファイル名：log

上記設定での動作)

以下のローテーションにより、最大で3ファイル「log.0」「log.1」「log.2」が保存されます。

(新) 「log.0」 → 「log.1」 → 「log.2」 (古)

- 1) 「log.0」のファイルサイズが10MByteに達すると「log.2」が削除されます。
- 2) 「log.1」は「log.2」にリネームされます。
- 3) 「log.0」は「log.1」にリネームして保存されます。
- 4) 新しいファイル「log.0」が作成されて、ログが保存されます。

ログ出力 - Syslog サーバ			
Syslog サーバ ログ出力		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	Syslog サーバへのログ出力機能の有効 (ENABLE) / 無効 (DISABLE) を設定します。		
設定可能範囲	ENABLE/DISABLE		
初期値	DISABLE		
Syslog サーバ		基本設定	-
		詳細設定	*
内容	Syslog サーバのドメイン名か IP アドレスを設定します。		
設定可能範囲	ドメイン名の場合 英数文字列 (0 ~ 128 文字) IP アドレスの場合 0.0.0.0 ~ 255.255.255.255		
初期値	(なし)		